FUJIFILM

Digital Camera

FinePix 4700z

使用説明書

この説明書には、フジフイルムデジタルカメラファインピックス4700Zの使い方がまとめられています。内容をご理解の上、正しくご使用ください。

BB10959-102(1)

目　次

4 応用編 再生

5 設定編

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを
大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意
あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やデータの記録されたメモリーカード（スマートメディア）の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について
液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分に注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- **皮膚に付着した場合：**
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- **目に入った場合：**
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- **飲み込んだ場合：**
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意
- 本カメラはクラスB情報技術装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で、住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しています。しかし本カメラをラジオ、テレビジョン受信機に近づけてお使いになると、受信障害の原因となることがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- この機器を飛行機や病院の中で使用しないでください。使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて
本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像データが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について
- iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の商標です。
- Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

カメラの特長 / 付属品

主な特長

- 新開発“スーパーCCDハニカム”搭載により記録画素数432万画素の高解像度
- 低分散非球面レンズを採用した高性能光学3倍ズームを搭載
- 小型軽量アルミニウム・マグネシウム合金ボディー
- 起動2秒、撮影間隔最短1秒と軽快な操作感
- 高感度ISO200と内蔵オートストロボにより撮影領域を拡大
- マクロ撮影機能付きオートフォーカス(マニュアルフォーカス可能)
- 被写体に適した条件を設定できる撮影シーン別オート撮影モード
- 撮影条件の細かな設定が可能なマニュアル撮影モード
- 撮影結果の確認に便利なプレビュー機能
- なめらかなデジタルズーム機能(メガピクセル時1.88倍)/再生ズーム機能(最大15倍)
- バランスの良い構図での撮影ができるベストフレーミング機能
- 最大画素数でも可能な連写機能
- ムービー(動画)撮影可能(320×240ピクセル、音声付き)
- 2型13万画素低温ポリシリコンTFT液晶モニター
- オープニング画面に好きな画像を登録可能
- ドットマトリクス液晶表示パネルによるわかりやすい操作
- USB接続により簡単高速に画像データ転送が可能(別売オプションで対応)
- 簡単プリントを実現するDPOF(Digital Print Order Format)対応
- デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠

  ＊DCFは日本電子工業振興協会(JEIDA)で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

※USBインターフェースセット IF-UB/Fやフロッピーディスクアダプター FD-A2B、イメージメモリーカードリーダー SM-R2、PCカードアダプター PC-AD3Bを使えば、パソコンとの連携も一層便利です。

付属品

- **単3形ニッケル水素電池 HR-AA(2本)**

- **バッテリーチャージャーBC-NH(1個)**

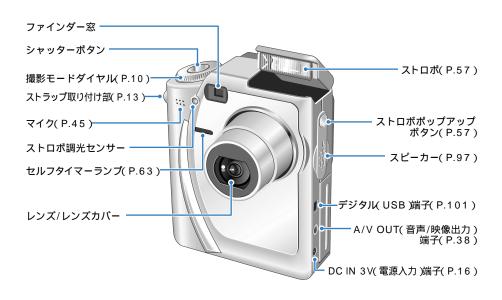
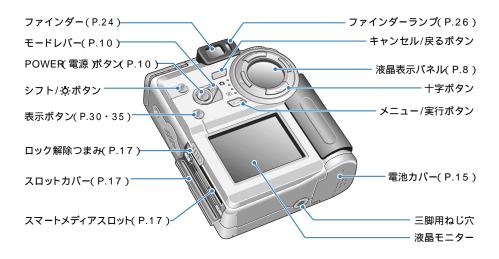
- **ハンドストラップ(1本)**

- **A/Vケーブル**
  φ2.5mmミニミニプラグ×ピンプラグ約1.5m(1本)

- **使用説明書(本書1部)**
- **安全上のご注意(1部)**
- **保証書(1部)**

各部の名称

＊(　)内のページに詳しい説明があります。

ファインダー（P.24）
モードレバー（P.10）
POWER(電源)ボタン(P.10)
シフト/☼ボタン
表示ボタン（P.30・35）
ロック解除つまみ（P.17）
スロットカバー（P.17）
スマートメディアスロット（P.17）
ファインダーランプ（P.26）
キャンセル/戻るボタン
液晶表示パネル（P.8）
十字ボタン
メニュー/実行ボタン
電池カバー（P.15）
三脚用ねじ穴
液晶モニター

各部の名称

液晶表示パネル

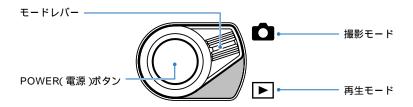
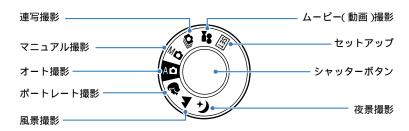
液晶表示パネルには操作状況により、アイコンが表示され操作の手助けをします。表示に従って十字ボタンを操作します。

＊カメラの設定状況‘撮影・再生モード、撮影可能枚数/時間、クオリティー設定、ピクセル設定、ストロボ設定、マクロ設定、セルフタイマー設定”などの確認や変更ができます。
＊モードレバー、電源ON、シフト/☼ボタンの操作時に、液晶表示パネルが撮影モードでは橙色に、再生モードでは緑色に約5秒間点灯します。

液晶表示パネル一覧

撮影	モード	セットアップ・ムービー・連写・マニュアル・オート・ポートレート・風景・夜景
	十字ボタン	上・下・左・右
	ズーム	望遠・広角
	ベストフレーミング機能	
	ストロボ設定	オート・赤目軽減・強制発光・スローシンクロ・発光禁止
	マクロ設定	ON・OFF
	セルフタイマー設定	ON・OFF
	マニュアルフォーカス	ピントを近くに・ピントを遠くに
	クオリティー設定	FINE・NORMAL・BASIC
	ピクセル設定	2400×1800・1280×960・640×480
再生	モード	静止画・動画・ズーム移動/トリミング・再生中・逆再生中・一時停止中
	コマ送り	前画像・次画像
	再生ズーム	拡大・縮小
	ムービー再生	再生/一時停止・逆再生・早送り・巻き戻し・停止・ムービーコマ送り
	ページ送り	前ページ・次ページ

各部の名称

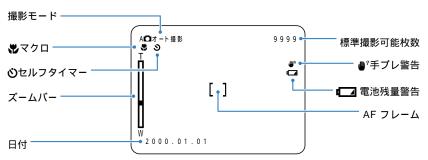
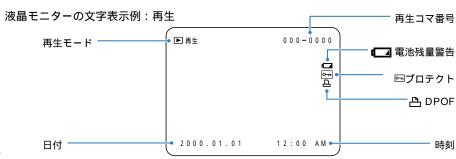
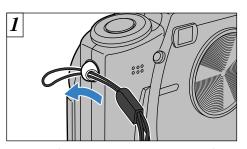
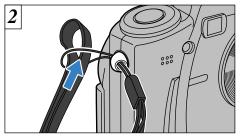
モードレバー

撮影モードダイヤル

撮影モードダイヤル一覧

SET	セットアップ (➡90ページ)	クオリティー・ピクセル・LCD(液晶)モニター・オートパワーオフ・コマNo.メモリー・ビープ♪(ブザー音)・オープニング画面・日時の設定ができます。
	ムービー(動画)撮影 (➡45ページ)	最大約80秒のムービー(320×240ピクセル・10フレーム/秒・AVI形式:音声付き)を同一ファイルに撮影できます。
	連写撮影 (➡43ページ)	最大3コマで0.2秒間隔の撮影ができます。また、マニュアルフォーカス・オートブラケティング(3コマ連写)機能も利用できます。
M	マニュアル撮影 (➡42ページ)	撮影画像を確認してから記録できます。また、アカルサ(露出補正)・ストロボの明るさ補正・ホワイトバランス・感度・マニュアルフォーカス・測光モード・シャープネス・プレビュー表示・の設定ができます。
A	オート撮影 (➡22ページ)	撮影状況に応じて露出などをカメラが自動的に制御する、簡単で使いやすい撮影モードです。
	ポートレート撮影 (➡40ページ)	人物撮影に最適な撮影モードです。
	風景撮影 (➡40ページ)	風景など、遠景の撮影に最適な撮影モードです。
	夜景撮影 (➡41ページ)	夜景を撮影するときなどに最適な撮影モードです。また、マニュアルフォーカス機能を利用できます。

各部の名称

液晶モニターの文字表示例：撮影

液晶モニターの文字表示例：再生

ストラップを取り付けます

ストラップの小さい方の輪を、ストラップ取り付け部に通します。

次に大きい方の輪の端を、小さい方の輪の中に通して引っ張ります。

電源をセットします

電池で使う

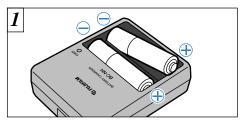
ニッケル水素電池、ニカド電池で、同種のものを2本使用します。

◆**電池撮影可能枚数**（充電池をフル充電した場合）
常温でストロボ使用率50%の場合の、連続して撮影できる枚数のめやすです。ただし、カメラの使用環境温度や電池充電量のバラツキによる変動はあります。

電池の種類	液晶モニターON状態	液晶モニターOFF状態
ニッケル水素電池 HR-AA「ニッケル水素1600」	約80枚	約230枚
ニカド電池 KR-AA（HP）「ハイパワー1000」	約50枚	約140枚

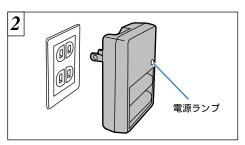
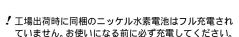
◆電池について◆

- アルカリ乾電池でもファインダー撮影（液晶モニターOFF状態）ならある程度撮影可能です（➡22ページ）。ただし、アルカリ乾電池の特性上、使用時間が極端に短くなります。また、寒冷地ではご使用になれない場合があります。
- リチウム電池やマンガン乾電池は発熱などにより、本機の故障の原因になることがありますので使用しないでください。
- 新しい電池と使用した電池を、混ぜて使用しないでください。

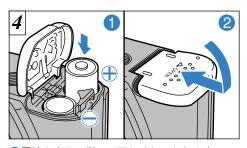
1

バッテリーチャージャー（BC-NH）に充電式電池を、表示に従って正しくセットします。

◆充電できる電池◆

- 単3形ニッケル水素電池
  フジフイルム HR-AA：2本（付属）
- 単3形ニカド電池
  フジフイルム KR-AA（HP）：2本（別売）

❗必ず指定の電池（弊社製）をご使用ください。単3形ニッケル水素電池、またはニカド電池以外は充電できません。指定外の電池（マンガン乾電池・アルカリ乾電池・リチウム電池）を充電すると、電池の破裂・液もれにより、火災・けがの原因になったり、周囲を汚損する恐れがあります。

充電器を電源コンセントに差し込み充電します。約13時間で充電が完了しますが、電源ランプは消灯しません。使用しないときはコンセントから抜いてください。

- 工場出荷時に同梱のニッケル水素電池はフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
- 使いきったニッケル水素電池の充電時間は約13時間（1,600mAh）です。ニカド電池KR-AA（HP）の場合、充電時間は約8時間です。
- 充電が終わっても電源ランプはついたままです。
- 別売のニッケル水素/ニカド急速充電器80（FNH）を使用すると充電時間を短縮できます(➡104ページ)。
- 充電器と電池は指定の弊社製品をおすすめします。

電池カバーを矢印方向にスライドさせてから開けます。

- 電池カバーに無理な力を加えないでください。
- 電池を交換するときは必ず電源を切ってください。電源を切らないと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。
- 各種設定は、ACパワーアダプターを接続または電池を入れて約半日以上経過していれば、それぞれを取り外して放置しても、約半日保持されます。電池交換後は、日付設定などをご確認ください。

❶電池を表示に従って正しくセットします。
❷電池カバーを矢印のように閉めます。

ACパワーアダプターで使う

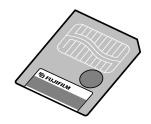
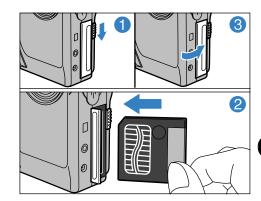
電池の消耗を気にせず撮影・再生するには、専用のACパワーアダプター AC-3V（別売）のご使用をおすすめします。
カメラの電源が切れていることを確認してから、AC-3Vの接続プラグをカメラの“DC IN 3V”端子に差し込みます。その後、AC-3Vを電源コンセントに差し込みます。

- ACパワーアダプターを接続しても電池の充電はできません。
- AC-3V以外をお使いになると、本機の故障の原因になることがあります。
- ACパワーアダプターについてのご注意は、109ページをご参照ください。

- 電池カバーを開閉するときは、電池を落とさないようにご注意してください。
- その他電源についてのご注意は107ページをご参照ください。

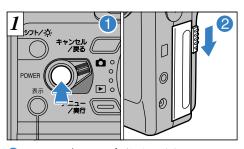
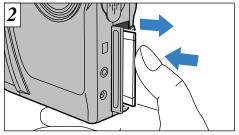
スマートメディア™をセットします

スマートメディア™

スマートメディアは必ず3.3V仕様をお使いください。
MG-4SB(4MB)、MG-8SB(8MB)、MG-16SB/MG-16SW(16MB)、MG-32SB/MG-32SW(32MB)、MG-64SW(64MB)

- ライトプロテクトシールがはられていると、記録、消去ができません(➡77ページ)。
- 本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。
- 3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。
- スマートメディアについてのご注意は、110ページをご参照ください。

❶電源が切れていることを確認し、スロットカバーのロックを外しカバーを開けます。
❷スマートメディアスロットにスマートメディアを確実に奥まで差し込みます。
❸スロットカバーを閉めます。

- 電源が入った状態でスロットカバーを開けると、スマートメディア保護のため電源が切れます。
- スマートメディアの向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。

1

スマートメディア™を取り出します

❶ファインダーランプが緑色に点灯していることを確認し、電源を切ります（➡次ページ）。
❷スロットカバーのロックを外します。

スマートメディアを「軽く押し込む」と、スマートメディアが少し飛び出しますので、簡単に取り出せます。

スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。スマートメディア、または画像データが破壊されることがあります。

❗スマートメディアを保管するときは、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。

◆画像のプリントとパソコンへの取り込みについて◆

- プリントするときは、78、98ページをご参照ください。
- パソコンに画像を取り込むには、98〜103ページをご参照ください。

電源のON/OFF

電源を入/切するには、電源ボタンを押します。電源を入れるとファインダーランプ[緑]が点灯します。

! モードレバーを" 📷 "にして電源を入れると、レンズカバーが開き、レンズ部が動きますので手で押さえないでください。
! 操作をする前に電源を入れてください。

オートパワーオフ機能(➡90ページ)有効時は、電源を入れたまましばらく放置すると、電源が自動的に切れます。

電源を入れると、電池残量警告を確認できます。

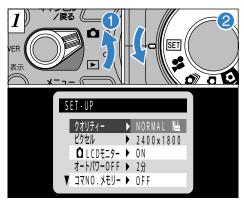
① 電池の容量は十分です。
（液晶表示パネルには電源を入れて2秒間のみ表示されます。）

② 電池の容量が不足しています。まもなく電源が切れますので、充電済みの電池と交換することをおすすめします。

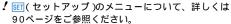
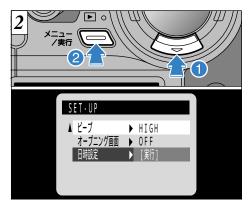
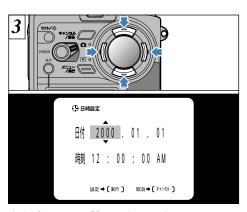
③ 電池の容量がありません。ただちに表示が消えて動作を終了します。充電済みの電池と交換してください。

! 液晶モニターの日時が点滅表示された場合は、日時を設定してください(➡20ページ)。

1

日時を合わせます

❶モードレバーを“📷”にし、❷撮影モードダイヤルを“SET”に合わせます。液晶モニターにSET-UP画面が表示されます。

❶十字ボタンの“▼”を押して“日時設定”を選択し、❷“メニュー/実行”ボタンを押します。

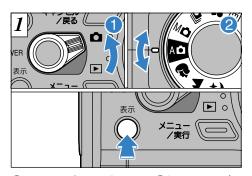
❗ SET（セットアップ）のメニューについて、詳しくは90ページをご参照ください。

❗ 設定した日時は、ACパワーアダプターを接続または電池を入れて約半日以上経過していれば、カメラからそれぞれを取り外しても、約半日保持されます。

十字ボタンの“ ◀ ▶ ”を押して合わせたい項目（年・月・日・時・分）を選び、“ ▲▼ ”を押して修正します。

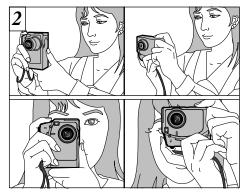
合わせ終わったあと、“ メニュー/実行 ”ボタンを押して設定し、SET-UP画面に戻ります。
撮影モードダイヤルを“ SET ”以外に合わせて SET（セットアップ）を終了します。

1

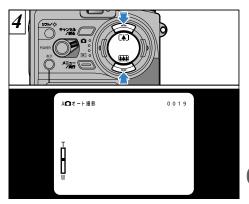
❗ 秒は設定できません。
❗ 時刻表示で“ 12:00:00 ”を越えると、自動的にAM/PMが切り換わります。

❗ 時報に正確に合わせたいときは、時報のゼロ秒時に“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

撮影してみましょう(オート撮影)

❶モードレバーを“📷”にし、❷撮影モードダイヤルを“A📷”に合わせます。
ファインダー撮影(マクロ撮影を除く)では“表示”ボタンを押して、液晶モニターをOFFにします。

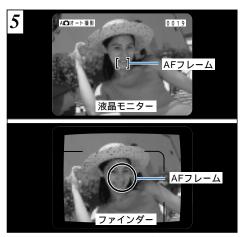
! 液晶モニターに日時が点滅表示された場合は、日時を設定してください（➡20ページ)。
! 約80cm〜無限遠の撮影が可能です。約80cmより近づいた場合にはマクロ撮影を使用してください(➡61ページ)。

ストラップに手首を通し、両脇をしめ、両手でカメラを構えます。

! レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は106ページを参照してレンズをきれいにしてください。
! 撮影するときカメラが動くと、画像がブレる原因となります。
! 暗い場所で撮影する場合は、手ブレ防止のためストロボ撮影(➡57ページ)を行うか、三脚の使用をおすすめします。

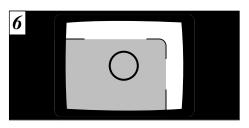
レンズやマイク、ストロボ調光センサーに、指やストラップがかからないようにしてください。

被写体を大きく写したいときは（望遠）、十字ボタンの“▲”を押します。広い範囲を写したいときは（広角）、十字ボタンの“▼”を押します。

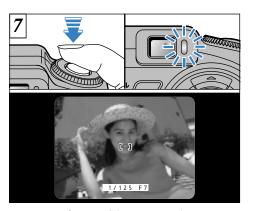
2

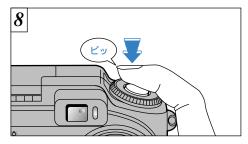
! 指やストラップがかかると、適正な撮影ができないことがあります。

! 焦点距離が約36mm～108mm（35mmカメラ換算）の3倍ズームです。
電源を入れたときの焦点距離は約41mm相当です。

液晶モニターまたはファインダーを使って、被写体がAF(オートフォーカス)フレーム全体を満たすようにねらいます。

❗ 被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、AF/AEロック撮影を行ってください(➡28ページ)。

❗ 薄暗いシーンなど、液晶モニターで被写体の確認がしにくい場合は、ファインダーの使用をおすすめします。

ファインダー撮影では、被写体までの距離が約0.8m〜1.5mの場合、図の□の部分が撮影されます。

❗ 撮影範囲を正確に合わせたい場合は、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターのAFフレームが小さくなり、“シャッタースピード/絞り値”が表示（ファインダーランプ［緑］が点滅から点灯）されるとピント合わせは完了です。

- シャッターボタンを半押しすると、一時的に液晶モニターの映像が止まりますが、記録される画像とは異なります。
- 暗くてピントが合わない場合は、被写体から1.5m以上離れて撮影してください。

半押しのままさらにシャッターボタンを押し込むと、“ピッ”と音が鳴り撮影されます。続いて画像データが記録されます。

- シャッターボタンをいっきに全押しすると、AFフレームは変化せずそのまま撮影されます。
- 撮影するとファインダーランプが橙色に点灯し（撮影不可）、その後緑色に変わると撮影できます。
- ストロボ充電中はファインダーランプが橙色に点滅します。
- 被写体（画像の細かさなど）によって記録されるデータ量が一定ではないため、記録後の標準撮影可能枚数が減らないか、または2コマ減る場合があります。
- 警告表示については、112ページをご参照ください。

◆ファインダーランプ表示について

色	状 態	内　　容
緑	点 灯	準備完了
	点 滅	AF・AE動作中または手ブレ、AF警告、スマートメディアに記録中(次の撮影可能)
橙	点 灯	スマートメディアに記録中(次の撮影不可)
	点 滅	ストロボ充電中
赤	点 滅	●**スマートメディアについての警告** 未挿入、未フォーマット、フォーマット異常、ライトプロテクトシールがはられている、空き容量がない、スマートメディア異常 ●**レンズ動作異常** ＊液晶モニターONでは、液晶モニターに詳しい警告が表示されます(➡112ページ)。

◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

このカメラは、正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件・被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わない状態で撮影されることがあります。

- 鏡・車のボディーなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が遠くて暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)
- 被写体の手前や後方に物体が共存するとき(オリの中の動物や木の前の人物など)
- 高速で移動する被写体

撮影可能枚数について

静止画撮影時(A📷・人物・風景・夜景・M📷・連写)に、液晶表示パネルの左図に撮影可能枚数が表示されます。

! クオリティー(画質)設定の変更は、92ページをご参照ください。
! ピクセル(画素数)設定の変更は、93ページをご参照ください。
! 工場出荷時設定は、NORMAL(クオリティー)、2400×1800(ピクセル)です。

◆スマートメディア標準撮影枚数

撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

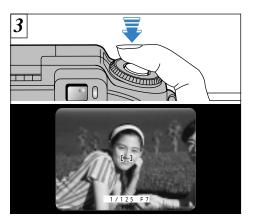
ピクセル	2400×1800			1280×960			640×480		
クオリティー	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	BASIC
画像1枚のデータサイズ	約1700KB	約803KB	約328KB	約612KB	約312KB	約162KB	約162KB	約87KB	約50KB
MG-4S(4MB)	2	4	11	6	12	23	23	44	70
MG-8S(8MB)	4	9	23	12	24	47	47	89	141
MG-16S(16MB)	9	19	47	25	49	90	90	165	248
MG-32S(32MB)	18	38	94	50	99	180	180	331	498
MG-64S(64MB)	36	77	189	101	198	362	362	663	996

AF/AEロック撮影

このような構図では被写体（この場合は人物）がAFフレームから外れています。このまま撮影すると人物にピントが合いません。

被写体がAFフレームに入るようにカメラを少し動かします。

◆AF（オートフォーカス）/AE（オートエクスポージャー）ロック◆

このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

そのままシャッターボタンを半押し(AF/AEロック)し、液晶モニターのAFフレームが小さくなり、"シャッタースピード/絞り値"が表示(ファインダーランプ[緑]が点滅から点灯)されるのを確認します。

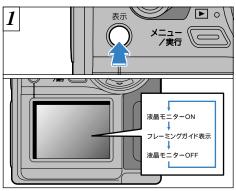
シャッターボタンを半押し(AF/AEロック)のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

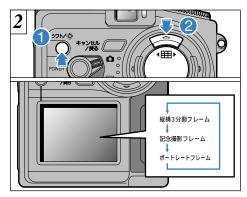
❗ AF/AEロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

❗ AF/AEロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AF/AEロックをうまく活用しましょう。

2

ベストフレーミング機能

撮影中に撮影モードダイヤルが“ A📷 ・ 👤 ・ ▲ ・ 🌙 ”では、“ 表示 ”ボタンを押すごとに液晶モニターの表示が切り換わります。“ 表示 ”ボタンを押して“ フレーミングガイド ”を表示します。

◆撮影モード/フレーミングガイド一覧

A📷	縦横3分割フレーム・記念撮影フレーム・ポートレートフレーム
👤	ポートレートフレームのみ3種類
▲	縦横3分割フレーム・記念撮影フレーム
🌙	縦横3分割フレーム・記念撮影フレーム

❶“ シフト/☀ ”ボタンを押しながら❷十字ボタンの“ ▲ ”を押すとフレーミングガイドを選択できます。フレーミングガイドは液晶モニターで撮影するときに、構図を決める際のめやすとなります。

❗フレーミングガイドは画像に記録されません。
❗“ シフト/☀ ”ボタンを押すと操作ガイダンス(“ シフト/☀ ”ボタンを押して実行できる操作の説明)が表示されます。

縦横3分割フレーム	記念撮影フレーム	ポートレートフレーム （人物縦位置撮影フレーム）
主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせて使用します。被写体の大きさやバランスを見ながら、躍動感のある構図で撮れるもっとも応用の効くフレームです。 	2人以上の記念撮影に使用します。 被写体をフレームの中にできるだけ大きく配置すると、表情をはっきり写し込んだ写真になります。 	ポートレート撮影に使用します。顔の大きさを各フレームに合わせることにより、大きなフレームはアップ、中ぐらいのフレームは胸から上、小さなフレームは半身の撮影になります。被写体から80cm以上離れ、ズームを使用して撮影します。

! 縦横3分割フレームのラインは、縦横の記録画素数の3分割のめやすです。プリントすると、3分割の位置から少しずれる場合もあります。

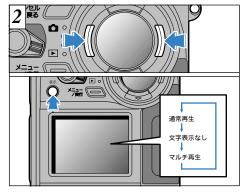
◆重要◆

必ずAF/AEロックを使って構図を決めてください。
AF/AEロックをしないとピントが合わないことがあります。

2

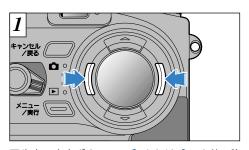
画像を見るには(再生)

モードレバーを"▶"に合わせます。

- モードレバーを"▶"に合わせたときは、最後に撮影した画像が表示されます。
- 液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節してください(➡97ページ)。
- "表示"ボタンを1回押すと、液晶モニターの文字表示が消えます。

十字ボタンの"▶"順送り、"◀"逆送りで画像を見ることができます。
また、"表示"ボタンを押すたびに液晶モニターの表示が切り換わります。

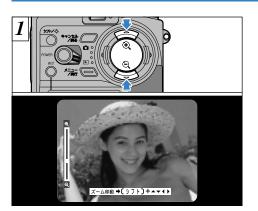
◆再生できる静止画データについて◆

本機で記録した静止画データ、または弊社製デジタルカメラ FinePixシリーズ、CLIP-IT80/50、DS-30/20/10およびDS-260HD/250HD/230HD、あるいはそのほかのDCF対応カメラで、3.3V仕様のスマートメディアに記録した静止画データが再生できます。

画像の早送り

再生中に十字ボタンの“◀”または“▶”を約3秒間押し続けると、画像を早送りできます。

早送り中は液晶モニターに小さく3コマ同時に表示されます。早送りをやめると、枠で囲われた画像が液晶モニターに1コマ表示されます。

! スマートメディア内のおおよその再生位置が、めやすとなるバーで表示されます。

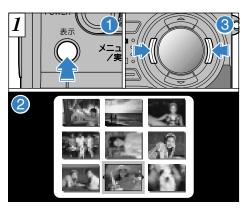
再生ズーム

再生中に十字ボタンの“▲▼”を押すと、静止画をズーム(拡大/縮小)します。このとき“ズームバー”が表示されます。

●ズーム倍率　2400×1800ピクセル画像：最大15倍
1280×　960ピクセル画像：最大8倍
640×　480ピクセル画像：最大4倍

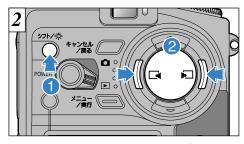
ズームしたあとに、❶“シフト/☼”ボタンを押しながら❷十字ボタンの“▲▼◀▶”を押すと、見える範囲を移動できます(ズーム送り)。

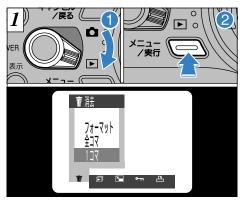
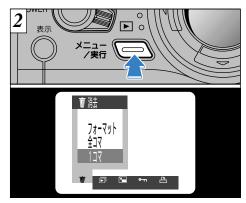
! ズーム中に“◀▶”を押すと、ズームが解除され次の画像に送られます。

! “キャンセル/戻る”ボタンを押すと、画像が等倍に戻ります。

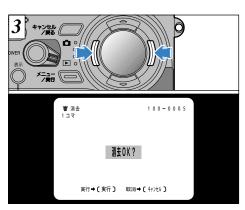
マルチ再生

❶再生中に“ 表示 ”ボタンを2回押します。
❷マルチ再生（9コマ）になります。
❸十字ボタンの“ ◀▶ ”でカーソル（橙色の枠）を動かして、コマを選べます。選んだ画像を通常再生したい場合は、再度“ 表示 ”ボタンを押してください。

! 液晶モニターの文字表示は、約3秒後に消えます。
! 再生ズーム中はマルチ再生はできません。

撮影した画像が9コマ以上ある場合、❶“ シフト/☼ ”ボタンを押しながら❷十字ボタンの“ ◀▶ ”を押すと、ページを移動して表示できます。

! マルチ再生では“ ▲▼ ”ボタンは無効です。
!“ シフト/☼ ”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。
! マルチ再生は、1コマ消去、1コマプロテクト、リサイズ、DPOF1コマ設定、DPOF確認/解除で画像を選択する場合に便利です。

画像を消すには（1コマ消去）

❶モードレバーを“▶”に合わせ、❷“メニュー/実行”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

“🗑消去”の“1コマ”が選択された状態で、“メニュー/実行”ボタンを押します。

❗全コマ消去、フォーマットについて、詳しくは69ページをご参照ください。

❗画像を選ぶときは、マルチ再生（➡35ページ）すると便利です。

十字ボタンの“ ◀▶ ”を押して消去したい画像を表示します。

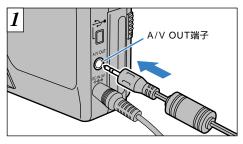
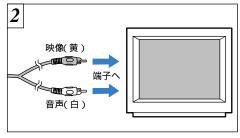
“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと、表示している画像が消去されます。消去が終わると次の画像が再生され、“ 消去OK？ ”が表示されます。

❗1コマ消去をやめたい場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

❗消去を続けるには、3からの操作を繰り返します。

❗“ ❗PROTECT ”が表示された場合、プロテクトを解除する必要があります（➡74ページ）。

❗“ DPOF設定されています、消去しますか？ ”が表示された場合は、DPOF指定されています。“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと画像を消去し、DPOF指定が更新されます。

テレビに画像を映す場合

カメラとテレビの電源を切ります。カメラの“A/V OUT（音声/映像出力）”端子にA/Vケーブル（付属品）のプラグを接続します。

テレビの音声入力/映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

- A/Vケーブルを接続するとカメラから音声は聞こえなくなります。
- 電源を入れたままA/Vケーブルを抜き差しすると音声が正しく出力されない場合があります。
- コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプター AC-3Vを接続することをおすすめします。

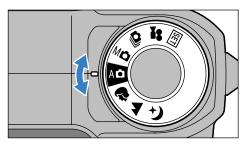
- テレビの音声入力端子がステレオの場合は左（白）に接続してください。
- テレビの音声入力/映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

応用編 撮影では

応用編 撮影では、モードレバーを“ ”に合わせた状態で行えるいろいろな機能をご紹介します。

◆撮影モード仕様一覧

撮影モード	設定可能メニュー	工場出荷時	ストロボ撮影(➡57ページ)	マクロ撮影(➡61ページ)	セルフタイマー撮影(➡62ページ)
Aオート(➡22ページ)	なし	——	○	○	○
ポートレート(➡40ページ)	なし	——	○	×	○
風景(➡40ページ)	なし	——	×	×	○
夜景(➡41ページ)	マニュアルフォーカス(➡52ページ)	OFF	○	×	○
Mマニュアル(➡42ページ)	アカルサ(露出補正) (➡49ページ) ストロボの明るさ補正(➡50ページ) ホワイトバランス (➡50ページ) 感度 (➡51ページ) マニュアルフォーカス (➡52ページ) 測光モード (➡53ページ) シャープネス (➡54ページ) プレビュー表示 (➡55ページ)	0 0 AUTO 200 OFF マルチ 0 ON	○	○	○
連写(➡43ページ)	マニュアルフォーカス(➡52ページ) オートブラケティング (➡56ページ)	OFF OFF	×	○	○
ムービー(動画)(➡45ページ)	なし	——	×	×	×

撮影モード A📷 オート/ポートレート/風景

撮影の目的に合わせて7種類の撮影モードが選べます。撮影モードダイヤルを回してモードを選びます。
“（ポートレート）・（風景）・（夜景）”は撮影シーンに適した撮影モードです。

A📷 オート

もっとも簡単に撮影ができる、撮影用途の広いモードです（➡22ページ）。

ポートレート（人物）

人物撮影に適したモードです。肌の色がきれいに見えるようにし、ソフトな感じに仕上がります。

! マクロ撮影は使用できません。

風景

昼間の風景撮影に適したモードです。建物や山などの風景をくっきりと仕上げます。

- ホワイトバランス
  屋外光に適した設定になります。
- ストロボ
  自動的に発光禁止になり、設定は変えられません。

! マクロ撮影は使用できません。

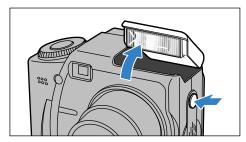
夜景

夜景

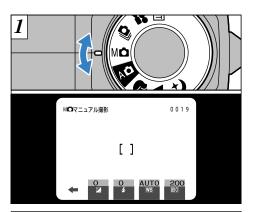
**夕景や夜景の撮影に適したモードです。
オート撮影などにくらべスローシャッター優先の撮影が行われます。**

- **シャッター**
  スローシャッターモードで、最長約3秒。
- **ホワイトバランス**
  屋外光に適した設定になります。
- **ストロボ**
  強制発光・赤目軽減のみ。

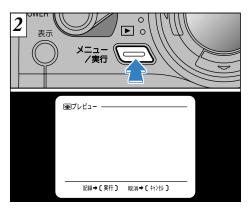
! スローシャッターになりますので、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

! マクロ撮影は使用できません。

夜景を背景にした人物をきれいに撮影するには、ストロボポップアップボタンを押してストロボを使用すると、スローシャッターのストロボ撮影（スローシンクロ）ができます。

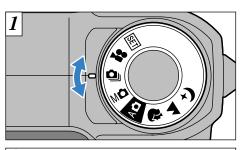
! ストロボを使用しない場合は、ストロボを押し下げて閉じてください。

! ストロボ撮影について、詳しくは57～60ページをご参照ください。

M📷マニュアル

撮影メニューの各種設定を組み合わせて撮影できるモードです。
工場出荷設定で撮影した場合、液晶モニターにプレビュー画面（撮影結果）が表示されるので便利です。

❗ 機能の設定（撮影メニュー）については、48〜56ページをご参照ください。

工場出荷設定で撮影した場合、液晶モニターにプレビュー画面（撮影結果）が表示されます。
記録する場合は“メニュー/実行”ボタン、記録しない場合は“キャンセル/戻る”ボタンを押します。

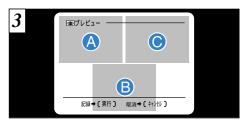
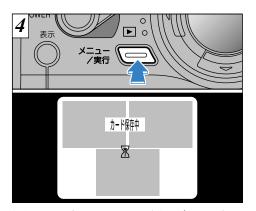
❗ マニュアル撮影の工場出荷設定は、プレビュー画面が表示される以外、オート撮影と同じです

連写

連写

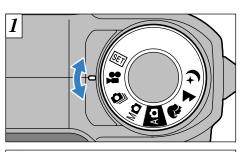
最短約0.2秒間隔で、最大3コマ連写できるモードです。

シャッターボタンを半押し（ファインダーランプ[緑]が点滅してから点灯）すると、ピント合わせは完了です。
シャッターボタンを全押ししている間、撮影されます。

- マニュアルフォーカス・オートブラケティングについては、52・56ページをご参照ください。
- ストロボ撮影はできません。
- どのクオリティー設定、ピクセル設定でも連写速度は変わりません。

- ピント、露出は1コマ目の撮影時に決定され、途中で変化しません。
- 撮影中は液晶モニターに撮影した1コマ目が表示されます。

撮影が終わると撮影順に1回目はⒶ、2回目はⒷ、3回目はⒸの順序でプレビュー画面（撮影結果）が表示されます。

記録する場合は“メニュー/実行”ボタンを押します。スマートメディアに記録中は、液晶モニターに“カード保存中”と表示されます。記録しない場合は キャンセル/戻る ボタンを押します。

❗シャッターボタンをすぐに離した場合は、3コマすべて撮影されないことがあります。

❗画像（NORMAL・2400×1800ピクセル）3コマのデータ記録時間は、約11秒です。

ムービー（動画）

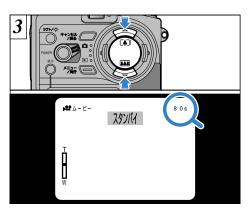
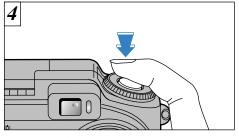
ムービー（動画）

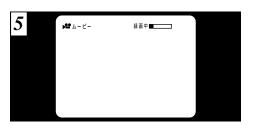
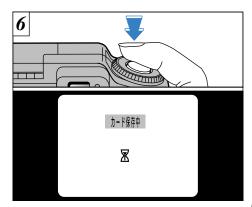
1回の撮影で最長約80秒（320×240ピクセル・10フレーム/秒・Motion JPEG（➡105ページ）形式）の音声付きのムービーを撮影できるモードです。

ムービーにすると液晶表示パネルに記録可能時間が表示されます。続いて液晶モニターに“スタンバイ”と表示されて撮影可能になります。

- 音声が同時に記録されるので、指などで“マイク（➡6ページ）”をふさがないようご注意ください。
- スマートメディアの空き容量によっては、1回の撮影時間が短くなることがあります。
- 液晶モニターをOFFにすることはできません。

◆スマートメディア標準撮影可能時間

スマートメディア容量	MG-4S（4MB）	MG-8S（8MB）	MG-16S（16MB）	MG-32S（32MB）	MG-64S（64MB）
記録可能時間（秒）	約22	約45	約90	約182	約364

ムービー撮影ではレンズが広角側に固定され、デジタルズームのみになります。十字ボタンの“▲▼”でデジタルズームができます。液晶モニターに“ズームバー”が表示されます。
右上の時間は、撮影開始時の記録可能時間です。

シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。

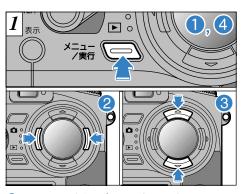
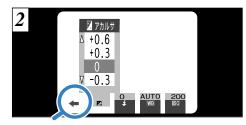
- ムービー撮影時は、シャッターボタンを押しても音声の記録をするため“ピッ”音はしません。
- シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
- ピントは約80cm〜無限遠の固定になります。
- 撮影中はピント、ホワイトバランスは固定ですが、露出はシーンに応じて自動的に変化します。

撮影中は液晶モニターに“録画時間バー”が表示されます。

撮影中にもう一度シャッターボタンを押すと、録画が終わりスマートメディアへ記録します。

3

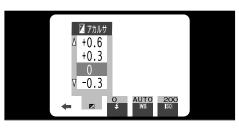
! “録画時間バー”は、録画時間と残り時間のめやすを表しています。バーがいっぱいになると自動的に録画が終了し、スマートメディアに記録されます。

! 約80秒の動画（約12MB）のスマートメディアへの書き込み時間は、約11秒です。

! 撮影開始後、すぐに撮影を終えても約3秒は録画されます。

撮影メニュー

❶" メニュー/実行 "ボタンを押して液晶モニターにメニューを表示します。
❷十字ボタンの" ◀▶ "でメニューを選択します。
❸" ▲▼ "で設定を変更します。
❹" メニュー/実行 "ボタンを押して決定します。

メニュー端の" ⬅➡ "側に、十字ボタンの" ◀▶ "を押すとメニューのページを切り換えできます。

❗撮影モードによって、変更できるメニューは変わります（➡39ページ）。

アカルサ（露出補正）

撮影モードが“ M📷 ”で設定できます。
被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な明るさ（露出）が得られないときに使用します。

- **補正範囲は11段（－1.5～＋1.5EV，約0.3EVステップ）です。EVについては105ページをご参照ください。**

! 次のような状態では、アカルサ設定が無効になります。
- オートまたは赤目軽減でストロボが発光したとき
- 強制発光で撮影シーンが暗いとき

◆次のような被写体のとき効果があります◆

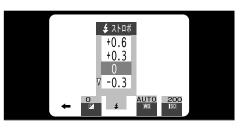
＋（プラス）補正

- 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の複写（＋1.5EV）
- 逆光の人物撮影（＋0.6～＋1.5EV）
- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合（＋0.9EV）
- 画面内を空の部分が大きく占める場合（＋0.9EV）

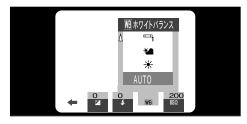
－（マイナス）補正

- スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合（－0.6EV）
- 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の複写（－0.6EV）
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合（－0.6EV）

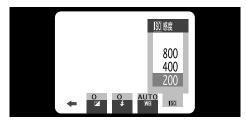
＊（　）内は補正のめやすです。

撮影メニュー ⚡ ストロボの明るさ補正

撮影モードが“M📷”で設定できます。
被写体が画面内で極端に小さい場合や、近距離でストロボ撮影する場合など、適正な明るさにならないときに使用します。

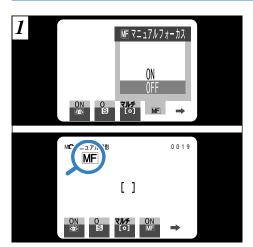
● 補正範囲は±2段（−0.6〜+0.6EV、約0.3EVステップ）です。EVについては105ページをご参照ください。

撮影メニュー WB ホワイトバランス

撮影モードが“M📷”で設定できます。
撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。
ホワイトバランスについては105ページをご参照ください。

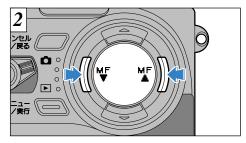
AUTO ：自動調整
（光源の雰囲気を残した撮影）
：晴れた屋外での撮影
：日陰での撮影
：昼光色蛍光灯下での撮影
：昼白色蛍光灯下での撮影
：白色蛍光灯下での撮影
：電球、白熱灯下での撮影

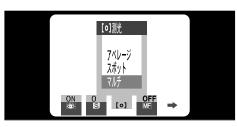
＊ストロボ発光時は、ホワイトバランス設定は無効になりますので、意図した撮影の場合ストロボを押し下げて発光禁止（➡60ページ）にしてください。

撮影モードが“M📷”で設定できます。
室内の撮影などで、ストロボを使わずに明るく撮影したい場合や、高速シャッターを切りたいとき（手ブレ防止など）に使用します。

● 設定値：200（標準値）・400・800

3

MF マニュアルフォーカス

撮影モードが“ ☾、M📷、📷 ”で設定できます。
AFでピントが合わない場合や、AFの苦手な被写体（➡26ページ）を撮影する場合に使用します。
“ ON ”にすると液晶モニターに、“ MF ”マークが表示されます。

ピントは十字ボタンの“ ◀ ”を押すと近くに（MF▼）、“ ▶ ”を押すと遠くに（MF▲）調節できます。ピントの確認は液晶モニターで行ってください。

❗ マニュアルフォーカス“ ON ”では、マクロ・ストロボの設定が変更できませんので、先にマクロ（➡61ページ）・ストロボ（➡57ページ）の設定を行ってください。

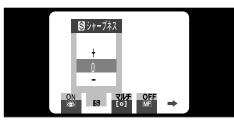
撮影メニュー [○] 測光モード

撮影モードが“ M📷 ”で設定できます。
被写体と背景の明るさが大きく異なる撮影シーンでマルチで思いどおり測光されない場合に使用します。

- **アベレージ：画面全体を平均して測光します。**
- **スポット　：画面中央部の露出が最適になるように測光します。**
- **マルチ　　：自動で場面を判別し、露出が最適になるように測光します。**

◆次のような被写体のとき効果があります◆

- **アベレージ**
  構図や被写体により露出が変化しにくい特長があります。白や黒などの服を着た人物や、風景の撮影などに有効です。
- **スポット**
  明暗差の大きい被写体で、ねらったものに正確に露出を合わせたいときに有効です。
- **マルチ**
  シーン自動認識により被写体を分析し、どのような条件でも適正な露出が得られます。
  通常はマルチの使用をおすすめします。

3

❗“ AUTO ”時はマルチに設定されています。

シャープネス

撮影モードが“M”で設定できます。
輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

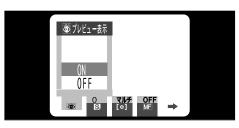
●設定範囲は±1段階です。

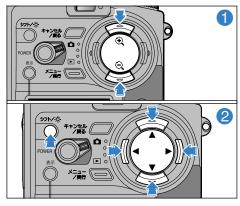
3段階切り換えです。

＋ ：輪郭を強調します。
建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。

0 ：通常の撮影に最適。
通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。

－ ：輪郭をソフトにします。
人物などをソフトにしたい撮影に最適です。

プレビュー表示

撮影モードが“ M ”で設定できます。
撮影後にプレビュー画面（撮影結果）を表示するかどうか設定できます。

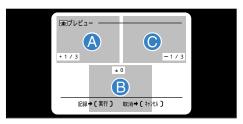
ON：プレビュー画面が表示され、画像を記録するかどうか選べます。
OFF：プレビュー画面は表示されず、画像は自動的に記録されます。

プレビュー画面を拡大してピントや細部の確認ができます。

❶プレビュー画面で十字ボタンの“ ▲▼ ”を押すと、画像をズームして確認できます。

❷ズームしたあとに ”シフト/☼ ” ボタンを押しながら“ ▲▼◀▶ ”を押すと見える範囲を移動できます。

オートブラケティング

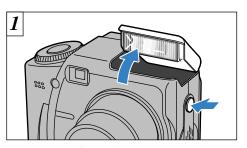
撮影モードが“ ”でのみ設定できます。同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。自動的に設定値きざみでアンダー・適正・オーバーの露出で3枚連続して撮影します。

●設定値は3種類（±1/3・±2/3・±1EV）です。

撮影するとプレビュー画面が表示されます。Ⓐがオーバー、Ⓑが適正、Ⓒがアンダーです。記録する場合は“メニュー/実行”ボタンを押します。記録しない場合は“キャンセル/戻る”ボタンを押します。

❗必ず3枚の画像が撮影されます。ただし、スマートメディアに3枚分の空き容量がない場合は撮影できません。

❗スマートメディアに記録中は、液晶モニターに“カード保存中”と表示されます。

❗データ記録時間は、NORMAL・2400×1800ピクセルの画像で約11秒です。

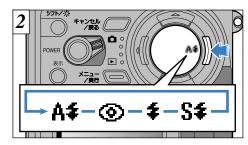
ストロボ撮影

ストロボポップアップボタンを押してストロボをセットします。

●ストロボ撮影可能距離
　広角側：0.2m〜4m
　望遠側：0.2m〜3m

❗オート撮影モードの場合、必ずストロボをポップアップし、オートストロボを使用してください。

❗ストロボをポップアップしたときや、ストロボ撮影をした場合、充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときファインダーランプが橙色の点滅をします。

❗ストロボを使用しない場合は、ストロボを押し下げて閉じてください。

十字ボタンの“▶”を押してストロボの設定を選びます。“▶”を押すたびに、A⚡→👁→⚡→S⚡の順に変わります。

❗マニュアルフォーカスを“ON”にしている場合や、ストロボを閉じている場合はストロボの設定を変更できません。マニュアルフォーカスを“OFF”にし（➡52ページ）、ストロボをポップアップしてください。

3

ストロボ撮影

オートストロボ

一般的な撮影に使用します。撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。

赤目軽減ストロボ

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。
撮影前にストロボがプレ発光し、次に撮影のためのストロボが発光します。

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするために、赤目軽減ストロボモードを積極的にご利用ください。赤目軽減ストロボモードを使用するとともに、

- 撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
- なるべく近づいて撮影する

などするとより効果的です。

強制発光ストロボ

窓際や木陰などの逆光撮影、蛍光灯などの照明の下で適正な色に撮りたいときに使用します。明るいところでもストロボ撮影が行われます。

スローシンクロ

スローシャッターのストロボ撮影です。夜景と人物をきれいに撮影することができます。

スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

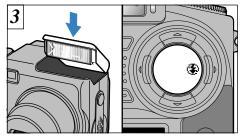
背景の夜景をより明るく撮りたい場合は、撮影モードの"(夜景)の使用をおすすめします(➡41ページ)。

3

ストロボ発光禁止

ストロボを押し下げると発光禁止になります。室内照明を利用しての撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。この場合、オートホワイトバランス（➡105ページ）が働き、周囲光の雰囲気を残しつつ自然な色に撮ることができます。

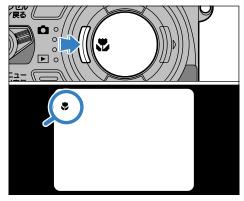
! 暗い場所で発光禁止で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。また、暗くてピントが合わない場合は、被写体から1.5m以上離れて撮影してください。

! 手ブレ警告については、26、113ページをご参照ください。

ストロボを押し下げて発光禁止にします。液晶表示パネルには“ ”が表示されます。

マクロ(近距離)撮影

マクロ撮影は“A📷・M📷・📷”の撮影モードで使用できます。
マクロを設定すると、約20cm〜80cmの範囲で近距離撮影ができます。また、撮影の状況に応じてストロボ撮影の設定をしてください(➡57ページ)。

- マニュアルフォーカスが“ON”では、マクロの設定が変更できないので、マニュアルフォーカスを“OFF”にしてください(➡52ページ)。
- ストロボの明るさの補正(➡50ページ)は、マニュアル撮影モード(➡42ページ)で設定できます。
- 暗い場所で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

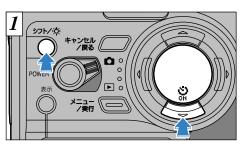
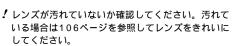
マクロ撮影でファインダーを使うと、ファインダー窓とレンズの位置が違うため、実際に見える範囲と写る範囲にズレが生じます。そのため、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

液晶表示パネルに“ (マクロOFF)”マークが表示されているときに、十字ボタンの“◀”を押すと液晶モニターに“ ”が表示され、マクロ撮影できます。もう一度“◀”を押すと解除されます。

- 液晶モニターは自動的にONになります。

3

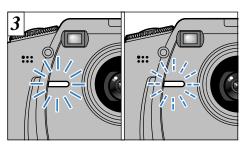
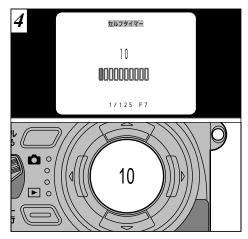
セルフタイマー撮影

1

撮影モードがA、、、、M、で、“シフト/ ”ボタンを押しながら十字ボタンの“▼”を押すと、セルフタイマー撮影になります。
もう一度同じ操作をすると解除できます。

❗ レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は106ページを参照してレンズをきれいにしてください。
❗“ベストフレーミング機能”の使用も可能です（➡30ページ）。

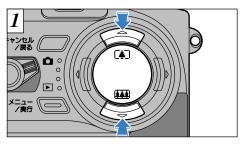
2

被写体にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを押すとAFフレーム内に見えるものにピントが合い、セルフタイマーがスタートします。

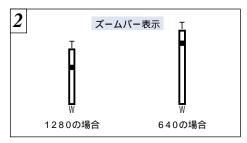
❗ AF/AEロック撮影も可能です（➡28ページ）。
❗ カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケになったり、適正な明るさ（露出）にならないことがあります。

セルフタイマーランプが約5秒間点灯したのち点滅に変わり、さらに約5秒後に撮影されます。

撮影されるまでの間、液晶モニターと液晶表示パネルにカウントダウン表示されます。
セルフタイマーは撮影ごとに自動的に解除されます。

! スタートしたセルフタイマー撮影は、“キャンセル/戻る”ボタンを押すと解除できます。

! 液晶モニターOFFの場合でも、液晶表示パネルで確認できます。

デジタルズーム

ピクセル（画素数）設定が“ 1280×960 ”または“ 640×480 ”では、十字ボタンの“ ▲[♣] ”を押し続けると光学3倍ズームに続いてデジタルズームになります。ただし、液晶モニターを使用した撮影でのみ有効です。

●デジタルズーム焦点距離
1280×960 ：約108mm〜約203mm相当
640×480 ：約108mm〜約405mm相当

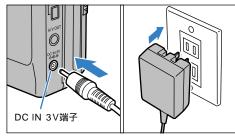
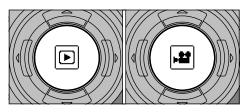
! 光学ズームは約36mm〜約108mm（35mmカメラ換算）です。
! ピクセル（画素数）設定の変更は93ページをご参照ください。

液晶モニターには“ ズームバー ”が表示されますが、ピクセル設定により長さが変わります。
液晶モニターの映像が確認しにくい場合は、シャッターボタンを半押ししてください。

! 2400×1800では、デジタルズームはできません。
! デジタルズームにすると、液晶モニターの映像がなめらかに変化しなくなります。

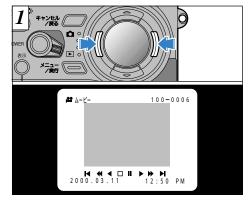
応用編 再生では

応用編 再生では、モードレバーを“▶”に合わせた状態で行えるいろいろな機能をご紹介します。

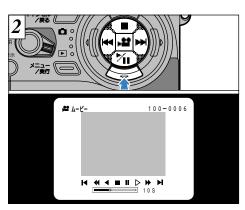
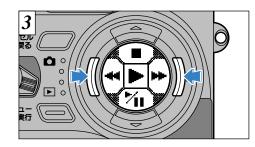
◆再生モードメニュー一覧

再生している画像	設定可能メニュー
静止画（➡32ページ）	消去（1コマ・全コマ・フォーマット）（➡36、69ページ） オートプレイ（自動再生）（➡71ページ） リサイズ（縮小）（➡72ページ） プロテクト（消去防止）（➡74ページ） DPOF（Digital Print Order Format）（➡78ページ）
ムービー（➡66ページ）	消去（1コマ・全コマ・フォーマット）（➡36、69ページ） インデックス作成（➡88ページ） プロテクト（消去防止）（➡74ページ）

コンセントが近くにある場合は、静止画やムービーを再生している最中に電源が切れないように、ACパワーアダプター AC-3V（別売）での使用をおすすめします（➡16ページ）。

ムービー（動画）再生

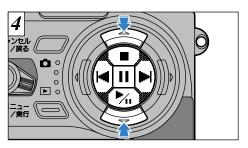
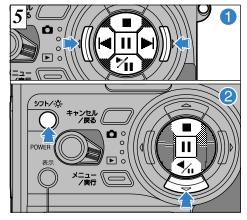
静止画とムービー（動画）の見分けかた

● **液晶表示パネルの中央に、“ ▶ ”と表示されるのは静止画で、“ 🎥 ”と表示されるのがムービーです。**

“ ◀▶ ”でムービーファイルを選びます。液晶モニターにはムービー用の画面が表示されます。

❗ スピーカーの音量調節ができます（➡97ページ）。
❗ 再生できるムービーファイルは、本機で撮影したムービーに限ります。

❗ マルチ再生や画像の早送りでも、ムービーはひと回り小さく表示されます。

再生する場合は“▼”を押します。再生すると液晶モニターに、再生中のバー表示と、時間が表示されます。

再生中に“◀▶”を押している間は、“▶▶早送り”と“◀◀巻き戻し”が行えます。

❗再生するときにデータを読み込むため、一時的に黒い画面になります。
❗再生が終わると自動的に停止し、最初の画面に戻ります。

ムービー（動画）再生

ムービー再生を一時停止するには“▼”を押します。一時停止を解除するにはもう一度“▼”を押します。再生をやめるには“▲”を押します。

❶一時停止中に“◀▶”を押すとムービーをコマ送りできます。押し続けると早くコマ送りできます。

❷一時停止中に、“シフト/☼”ボタンを押しながら“▼”ボタンを押すと、逆再生できます。

1コマ・全コマ消去/フォーマット

1コマ消去

選んだ静止画やムービーだけを消去します。

! プロテクトした静止画やムービー(➡74、76ページ)は消せません。

全コマ消去

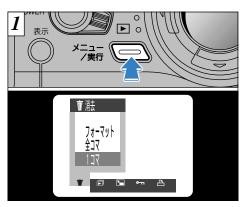
プロテクトした静止画やムービー以外をすべて消去します。

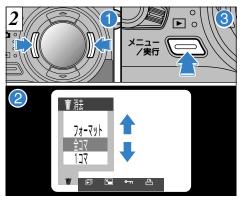
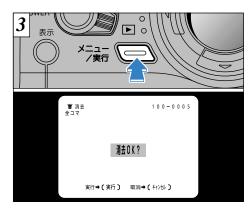
フォーマット

すべてのデータを消去してこのカメラ用に作り直します(スマートメディアの初期化)。

! プロテクトした静止画やムービーも消えます。

“メニュー/実行”ボタンを押して液晶モニターにメニューを表示します。

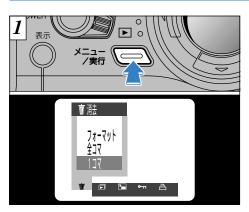
! “CARD ERROR” “CARD NOT INITIALIZED”が表示された場合は、まずスマートメディアの接触面(金色の部分)を乾いた柔らかい布などで軽くふいてから、再度セットしてください。それでも表示される場合は、フォーマットをしてください。

! メニューを終了するには“キャンセル/戻る”ボタンを押してください。

再生メニュー 🗑 1コマ・全コマ消去/フォーマット

❶"◀▶"で"🗑消去"を選びます。
❷"▲▼"を押して"1コマ"か"全コマ"か"フォーマット"を選びます。
❸"メニュー/実行"ボタンを押します。

実行を確認する画面が表示されます。
全コマ消去かフォーマットでは、OKなら"メニュー/実行"ボタンを押して実行します。
1コマ消去では画像を"◀▶"で選んでから、"メニュー/実行"ボタンを押します。

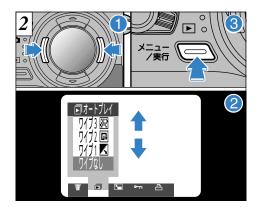
❗1コマ・全コマ消去/フォーマットをやめたい場合は、"キャンセル/戻る"ボタンを押してください。

❗"DPOF設定されています、消去しますか？"が表示された場合は、DPOF指定されています。"メニュー/実行"ボタンを押すと画像を消去します。

❗フォーマットするとすべての画像が消去されます。

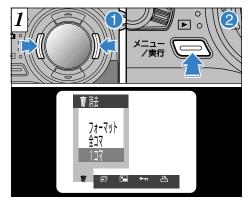
オートプレイ（自動再生）

“ メニュー/実行 ”ボタンを押して液晶モニターにメニューを表示します。

❗オートプレイ中はオートパワーオフしません。
❗ムービーは自動的に再生が始まります。再生が終わると次のコマに進みます。
❗ムービーファイル選択時はオートプレイは選べません。

◆表示方法◆
ワイプ1……斜め
ワイプ2……うず巻き
ワイプ3……モザイク

❶“ ◀▶ ”で“ オートプレイ ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して3種類の表示方法（ワイプ）から選びます。
❸“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。画像が自動的にコマ送りされて再生されます。

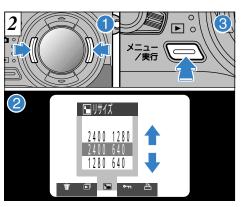
❗静止画再生中のみ“ 表示 ”ボタンを1回押すと、液晶モニターに“ オートプレイ ”と再生コマNo.が表示されます。
❗途中で止めたい場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

リサイズ(縮小)

リサイズすると、データ容量が小さくなったファイルを新しく作成します。
画像サイズが“2400×1800・1280×960”の静止画のみリサイズできます。
“2400×1800・1280×960”以外の画像サイズの場合、リサイズのメニューは選択できません。

①“◀▶”でリサイズしたい画像を選びます。
②“メニュー/実行”ボタンを押して液晶モニターにメニューを表示します。

◆こんなときに使います◆

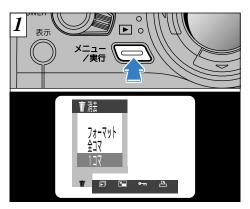
E-Mailに画像を添付したいとき、リサイズすると便利です。

! ムービーはリサイズできません。

①“◀▶”で“リサイズ”を選びます。
②“▲▼”を押して変更したいサイズを選びます。
③“メニュー/実行”ボタンを押します。

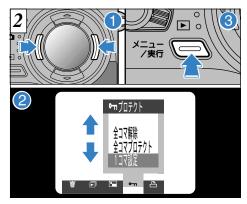
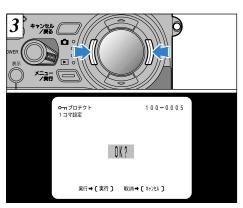
実行を確認する画面が表示されます。OKなら“メニュー/実行”ボタンを押して実行します。画像は別ファイルで記録されます。

! 実行可能なサイズのみ選択できます。
! “CARD FULL”または“PROTECTED CARD”と表示された場合は作動しません。不要な画像を消去するかプロテクトされていないスマートメディアを使用してください。

! リサイズしない場合は“キャンセル/戻る”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度“キャンセル/戻る”ボタンを押してください。

再生メニュー 1コマプロテクト設定/解除

“メニュー/実行”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

画像を選ぶときはマルチ再生（➡35ページ）すると便利です。

プロテクトとは、画像を誤って消去しないように設定することです。ただし“フォーマット”するとすべての画像が消去されます（➡69ページ）。

①“◀▶”で“プロテクト”を選びます。
②“▲▼”を押して“1コマ設定”を選びます。
③“メニュー/実行”ボタンを押します。

“◀▶”でプロテクトしたい画像を選びます。

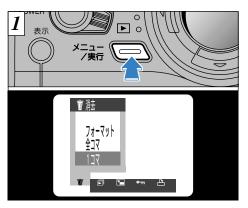
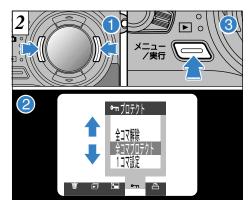
“メニュー/実行”ボタンを押すと画像がプロテクトされ、右端に“ ”マークが表示されます。プロテクトを解除するには、もう一度“メニュー/実行”ボタンを押します。

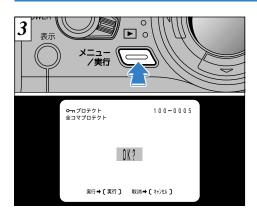
! ムービーは、撮影された単位（ファイル）ごとにプロテクトされます。

! プロテクト操作を終了するには“キャンセル/戻る”ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“キャンセル/戻る”ボタンを押してください。

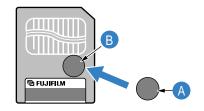
! プロテクトを続けるには、3からの操作を繰り返します。

4

再生メニュー 全コマプロテクト設定/解除

"メニュー/実行"ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

❶"◀▶"で"プロテクト"を選びます。
❷"▲▼"を押して"全コマプロテクト"か"全コマ解除"を選びます。
❸"メニュー/実行"ボタンを押します。

プロテクトされていても"フォーマット"するとすべての画像が消去されます(➡69ページ)。

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“メニュー/実行”ボタンを押して実行します。

スマートメディア™の誤記録防止について

ライトプロテクトシールをはると、画像の記録/消去・フォーマットができません。シールをはがすと通常どおり使用できます。

＊必ず付属のライトプロテクトシールⒶを、ライトプロテクトエリア内Ⓑに、はみ出さないようにしっかりとはってください。はがしたシールの再利用はできません。
＊シールの端で手を切らないようにご注意ください。
＊シールが汚れていると、誤記録防止されないことがあります。

4

再生メニュー DPOFについて

DPOF(ディーポフ)とはDigital Print Order Format(デジタルプリントオーダーフォーマット)のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報をスマートメディアなどに記録するときの形式です。

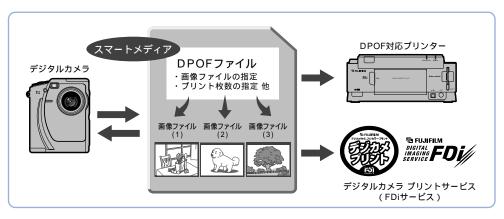
デジタルカメラ

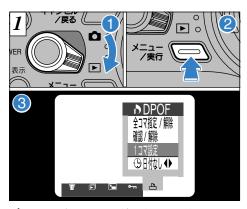
スマートメディア

DPOFファイル
・画像ファイルの指定
・プリント枚数の指定 他

画像ファイル(1)
画像ファイル(2)
画像ファイル(3)

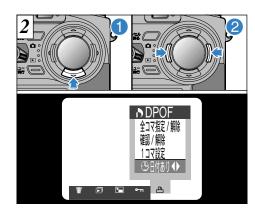
DPOF対応プリンター

デジタルカメラ プリントサービス
(FDiサービス)

- DPOF対応デジタルカメラ(本機)では上記の情報をカメラの操作でスマートメディアに記録することができます。
- DPOF情報を記録したスマートメディアを、フジフイルム デジタルカメラプリントサービス(FDiサービス)取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ(画像ファイル)を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

再生メニュー DPOF 日付設定

プリントに撮影した日付を入れるか入れないかを選べる機能です。

① モードレバーを“ ▶ ”に合わせ

② “ メニュー/実行 ”ボタンを押して、液晶モニターにメニューを表示させます。

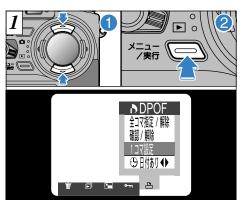
③ “ ▶ ”を押して“ DPOF ”を選びます。

! ムービーはDPOF指定できません。

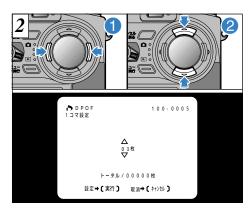
① “ ▼ ”で“ 日付 ”を選びます。

② “ ◀ ▶ ”を押すと、“ 日付あり ”か“ 日付なし ”が設定できます。その後、設定を変更するまですべてに有効です。

! 他の設定の前に、必ず日付あり/なしの設定を行ってください。

4

DPOF 1コマ設定

❶“ ▲▼ ”で“ 1コマ設定 ”を選びます。
❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

❗設定の前に、必ず日付あり/なしを設定してください。
❗1コマ設定・トリミング設定のあとに全コマ指定を行うと、1コマ設定で設定したコマ数とトリミング設定は解除されます。

❶“ ◀▶ ”で設定するコマを表示させます。
❷“ ▲▼ ”でプリント枚数を指定します。

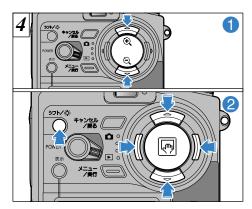
トリミング設定をしない場合は 6 へ(➡82ページ)

❗指定できるプリント枚数は1コマにつき99枚までです。また、同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。
❗画像を選ぶときはマルチ再生(➡35ページ)すると便利です。

〈トリミング設定する場合〉 3～5

❶プリント枚数を指定したあとで、“シフト/☼”ボタンを押しながら❷“メニュー/実行”ボタンを押すと、トリミング設定画面になります。

! 640×480ピクセルの画像はトリミング設定できません。

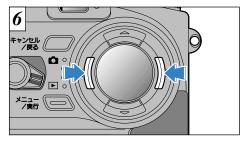
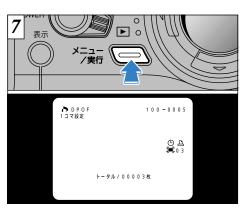
!“シフト/☼”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。

❶“▲▼”でズームします。

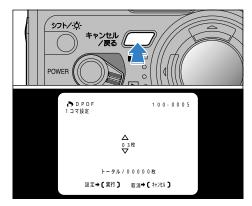
❷“シフト/☼”ボタンを押しながら“▲▼◀▶”を押すと、トリミングする範囲を移動することができます。

! トリミングできる最小ピクセル数は640×480相当までです。

! トリミングしたあとの画像の横と縦の長さの比は4：3になります。

4

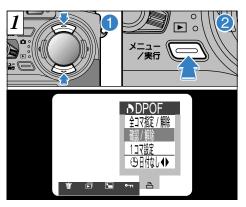
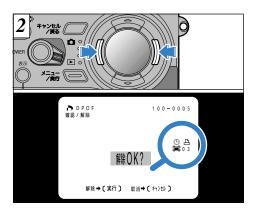
液晶モニターでトリミング設定を確認後、“メニュー/実行”ボタンを押すと決定されます。

他のコマを設定したい場合は“◀▶”で選び、続けてプリント枚数を指定できます。

〈実行する場合〉

設定が終わったら、必ず“メニュー/実行”ボタンを押して決定してください。液晶モニターにトータル枚数が表示され、メニューに戻ります。確定したコマには“ とプリント枚数”、日付設定ありの場合は“ ”、トリミング設定有りの場合は“ ”が表示されます。

〈キャンセルする場合〉

キャンセルした場合は、選択中のコマの設定のみ無効になります。選択中のコマ以外の設定はキャンセルされません。

4

“トータル”は指定したプリント枚数の合計です。

再生メニュー DPOF 確認/解除

❶“ ▲▼ ”で“ 確認/解除 ”を選びます。
❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

“ ◀▶ ”を押すと、プリント枚数設定をしたコマだけを確認できます。各コマの設定は画面の右端に表示されます。

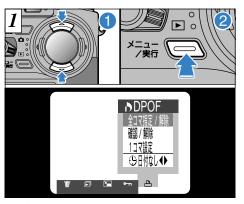
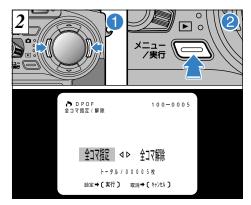
- 画像を選ぶときはマルチ再生（➡35ページ）すると便利です。
- 確認/解除をやめたい場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

プリント設定を解除するには、解除したい画像を表示し“メニュー/実行”ボタンを押します。プリント設定の解除が終わると次の画像が再生され“解除OK?”が表示されます。

! プリント設定の解除を続けるには、2からの操作を繰り返します。

! すべてのプリント設定が解除されている場合“トータル”は“00000枚”になり、背景が黒い画面になります。

4

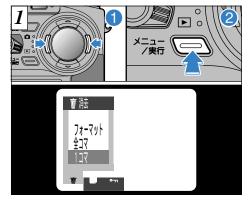
再生メニュー DPOF 全コマ指定/解除

❶" ▲▼ "で" 全コマ指定/解除 "を選びます。
❷" メニュー/実行 "ボタンを押します。

❶" ◀▶ "で" 全コマ指定 "か" 全コマ解除 "を選びます。
❷" メニュー/実行 "ボタンを押して設定します。

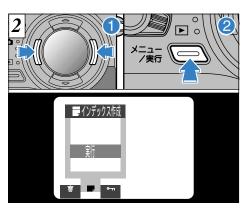
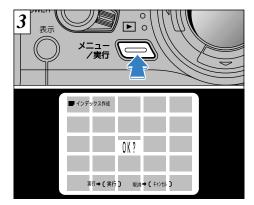
❗" 全コマ指定 "は、すべての画像を1枚ずつプリントする指定をします。
❗1コマ設定での設定とトリミング設定は解除されます。

液晶モニターにトータル枚数が表示され、その後メニューに戻ります。

- 同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は、999コマまでです。999コマ以上の指定をすると“ DPOF FILE ERROR ”警告が出ます(➡113ページ)。
- “ トータル ”は指定したプリント枚数の合計です。
- 全コマ解除した場合“ トータル ”は“ 00000枚 ”になります。

インデックス作成

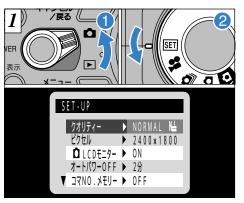
インデックス作成は、ムービーファイルを選択しているときのみ設定できます。
ムービーを再生しなくても内容がわかるインデックス画像を作成します。
ムービーファイルから25コマの画像を等間隔で抜き出して、1つの画像（2400×1800）に並べて保存する機能です。

❶"◀▶"でムービーファイルを選びます。
❷"メニュー/実行"ボタンを押してメニューを表示します。

❗ムービーの記録時間によって、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。

❶“◀▶”で“ インデックス作成”を選びます。
❷“メニュー/実行”ボタンを押します。

インデックスのプレビュー画面が表示されます。記録する場合は“メニュー/実行”ボタンを押します。

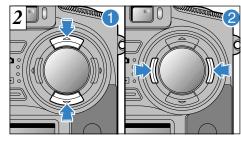
4

❗記録しない場合は“キャンセル/戻る”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“キャンセル/戻る”ボタンを押してください。

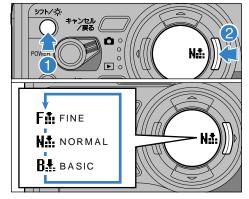
セットアップ ▶設定事項は次のとおりです。

項　目	表　示	工場出荷時	内　　容
クオリティー	FINE/NORMAL/BASIC	NORMAL	記録する圧縮率を設定できます。詳しくは、92ページをご参照ください。
ピクセル	2400×1800/1280×960/640×480	2400×1800	記録する画素数（画像サイズ）を設定できます。詳しくは、93ページをご参照ください。
LCDモニター	ON/OFF	ON	モードレバーをにしたときに、液晶モニターを自動的にONにするかOFFにするかを切り換えます。
オートパワーOFF	2分/5分/OFF	2分	何も操作していないときに、電源を自動的に切るかどうか設定できます。ただし、オートプレイ時とUSB接続時はオートパワーオフしません。
コマNO.メモリー	ON/OFF	OFF	コマNO.メモリー機能を使用するかしないかを切り換えます。詳しくは、94ページをご参照ください。
ビープ♪	HIGH/LOW/OFF	HIGH	操作したときの“ピッ”の音量を切り換えます。
オープニング画面	ON/OFF/登録[実行]	OFF	電源を入れたときに、登録した画面を表示するかしないかを切り換えます。画面の登録は95ページをご参照ください。 ＊“ON”は画面を登録しないと選べません。
日時設定	実行	—	日付、時刻を設定できます。詳しくは、20ページをご参照ください。

①モードレバーを“📷”に合わせます。
②撮影モードダイヤルを“SET”に合わせ、SET-UP画面を表示します。

①“▲▼”を押して項目を選択します。
②“◀▶”で設定を変更できます。

❗電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずに電池カバーを開けたりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

クオリティー設定(➡92ページ)・ピクセル設定(➡93ページ)は、撮影中でも設定することができます。

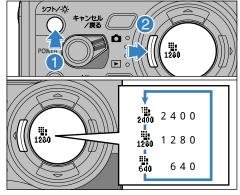
クオリティー（画質）設定

撮影の目的に合わせて、3種類の画質（記録画像の圧縮率）を選べます。
画質によって標準撮影可能枚数が変わります。スマートメディアの標準撮影枚数については27ページをご参照ください。
画質を優先する場合は［FINE］を、枚数を優先する場合は［BASIC］を選んでください。
通常は［NORMAL］で十分な画質が得られます。

❶“シフト/☼”ボタンを押しながら❷“▶”を押すと、3種類の画質［FINE］［NORMAL］［BASIC］を切り換えることができます。変更後の設定は液晶表示パネルに表示されます。

! モードレバーが“📷”で、撮影モードダイヤルが“A📷・人物・風景・夜景・M📷・連写”のときに設定を変更できます。

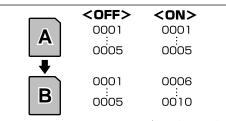
ピクセル（画素数）設定

撮影の目的に合わせて、3種類の画素数（画像サイズ）を選べます。画素数によって標準撮影可能枚数が変わります。スマートメディアの標準撮影枚数については、27ページをご参照ください。

- 2400 ：2,400×1,800ピクセル
- 1280 ：1,280× 960ピクセル
- 640 ： 640× 480ピクセル

❶“シフト/☼”ボタンを押しながら❷の“◀”を押すと、3種類の画素数［2400］［1280］［640］を切り換えることができます。変更後の設定は液晶表示パネルに表示されます。

5

❗ モードレバーが“📷”で、撮影モードダイヤルが“A📷・👤・▲・☾・M📷・📷”のときに設定を変更できます。

コマNO.メモリー設定

A、Bともにフォーマットされたスマートメディアを使用した場合

OFF：スマートメディアごとに「ファイルNo.0001」から撮影
ON　：最後に使用したスマートメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影

“ ON ”にすると、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

! 記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がスマートメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

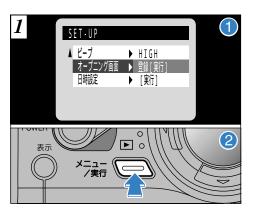
画像を再生するとファイルNo.を確認できます。画面の右上の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、上3けたはフォルダーNo.です。

! スマートメディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNO.メモリーが機能しません。

! ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダーNo.が1つ繰り上がります。最大で999−9999までカウントされます。

! コマNO.メモリーを“ OFF ”にすると、記憶した「最終ファイルNo.」がリセットされます。

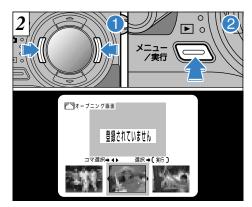
! 他のカメラで撮影した画像は、コマNo.表示が異なる場合があります。

オープニング画面登録

撮影済みの画像の中からオープニング画面に登録することができます。

❶SET-UP画面の“オープニング画面”の項目で、“登録［実行］”を“◀▶”で選択します。

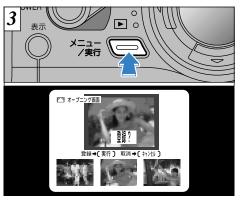
❷“メニュー/実行”ボタンを押して、オープニング画面登録を開始します。

❗画面を登録しないと、“ON”は選べません。

❶登録選択画面で“◀▶”を押し画像を選びます。

❷登録したい画像を選んでから“メニュー/実行”ボタンを押します。

❗登録できる画像は、Exif形式で画素数（画像サイズ）が[2400×1800][1280×960][640×480]に限ります。ムービーファイルは登録選択画像に表示されません。

❗画像を登録しない場合は、“キャンセル/戻る”ボタンを押してください。

オープニング画面登録

登録を確認する画面が表示されます。OKなら“メニュー/実行”ボタンを押して登録します。

SET-UP画面の“オープニング画面”の項目を“ON”にすると、電源を入れたときに登録した画像が表示されます。

❗新しい画像を登録すると前の画像は消去されます。

❗表示されるオープニング画面は、もとの画像と画質が異なります。

液晶モニターの明るさ調節/スピーカーの音量調節

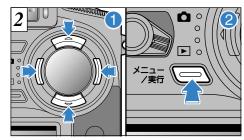
1

シフト/☼　キャンセル／戻る　POWER　表示　メニュー／実行

音量　- ◂0000000---▸+
明るさ　- ◂0000000---▸+
設定→〔実行〕　取消→〔ｷｬﾝｾﾙ〕

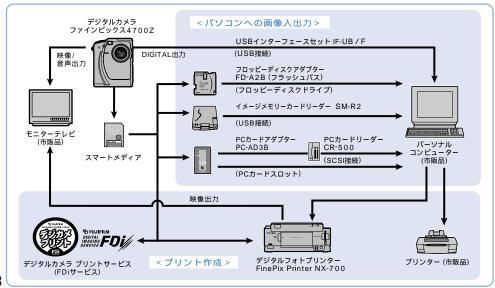
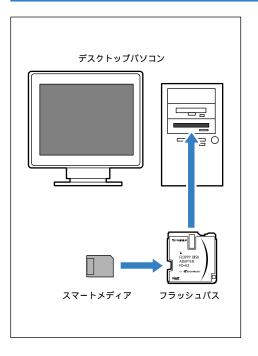
❶“ シフト/☼ ”ボタンを押しながら❷“ 表示 ”ボタンを押すと“ 調節バー ”が表示されます。

● **明るさ調節**
モードレバーが“ 📷 ”“ ▶ ”のどちらでも調節できます。ただし、モードレバーが“ 📷 ”で撮影モードダイヤルが“ SET ”では調節できません。

● **音量調節**
モードレバーが“ ▶ ”でムービーファイル選択時のみ調節できます。

❶“ ◀ ▶ ”を押して液晶モニターの明るさ/スピーカーの音量を調節します。明るさと音量は“ ▲▼ ”で切り換えできます。❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押して決定します。

! ムービーの再生中は再生が一時停止します。
! 液晶モニターがOFFのままでは設定を変更できません。
! 設定を変更しない場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

システムアップ機器（別売）（平成12年2月現在）

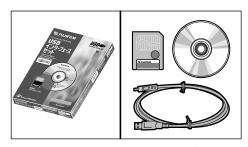
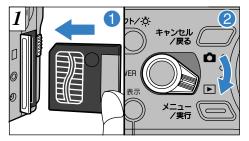
▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。詳しくは100～104ページをご参照ください。

フロッピーディスクアダプター FD-A2Bを使用する場合

- **カメラからスマートメディアを取り出し、FD-A2Bに差し込みます。**
- **これをパソコンのフロッピーディスクドライブに挿入すると、フロッピーディスクでファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。**
- **Windows95/98（DOS/V機）、Windows95 OSR2/98（NEC PC-9821シリーズ）、Power Macintosh/MacOS7.6.1～MacOS8.1で利用可能です。**

! PCカード経由や、USBインターフェース経由で接続するタイプのフロッピーディスクドライブではお使いになれません。

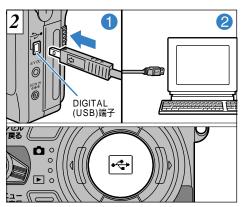
! LS-120やHiFDなど、高容量タイプのフロッピーディスクドライブではお使いになれません。

! Power Macintoshでご使用の場合は読み込み専用となります。

! 画像の閲覧や加工、プリントには別途画像アプリケーションソフト（JPEG対応）が必要です。

USBインターフェースセット IF-UB/Fを使用する場合

- **パソコンとカメラを付属のケーブルで接続し、カメラからパソコンへ画像データを転送します。ただし、パソコンからのデータの書き込みはできません。**
- **画像の簡単な加工や整理保存ができるアプリケーションソフトを収めたCD-ROMと16MBのスマートメディアが同梱されています。**
- **Windows98(Second Editionを含む)、Macintosh/MacOS8.5.1～MacOS9.0で利用可能です。**
  ただし、USBポートのある機種(自作パソコンは動作保証外です)に限ります。

①スマートメディアをセットしてください。
②電源を入れてモードレバーを“▶”に合わせます。

❗ パソコンと接続されているときは、オートパワーオフしません。

❗ ACパワーアダプター AC-3V(別売)の接続をおすすめします(➡16ページ)。データ通信中に電源が切れると、正常なデータの転送ができません。

❶カメラのデジタル（USB）端子に専用ケーブルの小さいプラグを接続し、❷もう片方のプラグをパソコン側のUSB端子に接続します。パソコンの電源が入っていると液晶表示パネルに“ ”が表示されます。

❗専用ケーブル以外は使用しないでください。

❗ソフトウエアのインストールのしかたと使いかたは、USBインターフェースセットの使用説明書をご覧ください。

ファインダーランプが橙色に点灯しているときは、”アクセス中 ”(スマートメディアからのデータ読み出し中)です。アクセス中は、絶対にスロットカバーを開けたり、ケーブルを抜いたりしないでください。データが正しく転送されなかったり、カメラが正常に作動しない場合があります。

◆スマートメディアを交換するとき◆

● **Windowsの場合**

“ アクセス中 ”でないことを確認した上で交換してください。

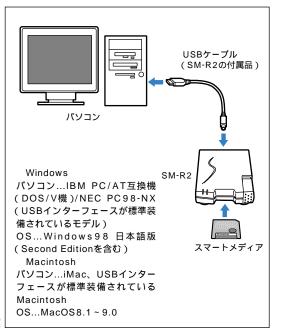
● **Macintoshの場合**

パソコンでデスクトップ上の「リムーバブルドライブ」アイコンを「ごみ箱」にドラッグ&ドロップして液晶表示パネルに“ REMOVE OK ”が出ているときに交換してください。

❗パソコンの環境によっては、スマートメディアの入れ替え後、再認識されないことがあります。その場合はカメラの電源のON/OFFをしてください。

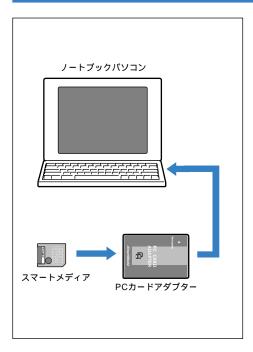
イメージメモリーカードリーダー SM-R2を使用する場合

■**Windows**
パソコン…IBM PC/AT互換機（DOS/V機）/NEC PC98-NX（USBインターフェースが標準装備されているモデル）
OS…Windows98 日本語版（Second Editionを含む）

■**Macintosh**
パソコン…iMac、USBインターフェースが標準装備されているMacintosh
OS…MacOS8.1〜9.0

- **カメラからスマートメディアを取り出し、イメージメモリーカードリーダーSM-R2に差し込みます。**
- **パソコンの外付けドライブのファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。**

! USBインターフェースを標準装備したパソコンでのみ利用可能です。

! 画像の閲覧や加工・プリントには、別途画像アプリケーションソフト（JPEG対応）が必要です。

PCカードアダプター PC-AD3Bを使用する場合

●カメラからスマートメディアを取り出し、PC-AD3Bに差し込みます。
●これをノートパソコンなどのPCカードスロットに挿入すると、PCメモリーカードでファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。
●Windows95/98、Macintoshで利用可能です。ただし、機能拡張のPC Exchange、またはFile Exchangeが必要です。

! PCカードTYPE II対応のPCカードスロット内蔵、またはPCカードリーダー/ライターが接続されたパソコンで利用可能です。
! 画像の閲覧や加工・プリントには、別途画像アプリケーションソフト(JPEG対応)が必要です。

その他 別売アクセサリーの紹介（平成12年2月現在）

▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。

●スマートメディア™

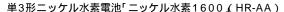
以下の種類がお使いいただけます。

- ●MG-4SB　：　4MB、3.3V仕様
- ●MG-8SB　：　8MB、3.3V仕様
- ●MG-16SB　：16MB、3.3V仕様
- ●MG-32SB　：32MB、3.3V仕様
- ●MG-16SW　：16MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-32SW　：32MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-64SW　：64MB、3.3V仕様（ID付き）

＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

●ACパワーアダプター AC-3V

長時間の撮影時、パソコンとの接続時にお使いください。

●単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素1600」（HR-AA）

高容量の単3形ニッケル水素電池です。
2本パック「型名 HR-AA/2B」をお買い求めください。

●単3形ニカド電池「ハイパワー1000」（KR-AA（HP））

高容量の単3形ニカド電池です。
2本パック「型名 KR-AA（HP）/2B」をお買い求めください。

●ニッケル水素/ニカド急速充電器80（FNH）

ニッケル水素電池 2本を約80分間で充電できます。
同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です（日本国内使用専用）。

●ソフトケース SC-FX27

本革製の専用ケースです。カメラを持ち運ぶときに、ゴミやほこり、軽い衝撃からカメラを保護します。

用語の解説

AF/AEロック：このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

EV：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。
CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。

Exif（イグジフ）ファイル形式：Exif（イグジフ）は、JEIDA（日本電子工業振興協会）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。

JPEG（ジェイペグ）：Joint Photographic Experts Groupの略
カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

Motion JPEG：画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマット AVI（Audio Video Interleave）形式の1種類であり、ファイル内の画像はJPEG形式で記録されています。QuickTime2.0～で再生できます。

オートパワーオフ機能：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を防ぐため、しばらく何も操作しないと自動的に電源をOFFします。本機では2分/5分の設定ができます。
- セットアップでオートパワーオフを無効にした場合、またはオートプレイ時やUSB接続時は、オートパワーオフしません。

ホワイトバランス：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能を**オートホワイトバランス**といいます。

使用上のご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- ●湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- ●直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- ●振動の激しいところ
- ●油煙や湯気の当たるところ
- ●強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- ●防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■砂がかからないようにしてください。

砂は本機の大敵です。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因となるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴（結露）がつくことがあります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、スマートメディアに水滴がつくことがあります。このようなときはスマートメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリー、スマートメディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- ●カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■海外で使うとき

- ●このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内のサービスステーションにご相談ください。
- ●海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因となることがあります。

電源についてのご注意

使用できる電池

- 本機には、単3形ニッケル水素電池、単3形ニカド電池を使用してください。
  単3形マンガン乾電池や単3形リチウム電池は、電池の発熱などにより本機の故障や事故の原因となることがありますので使用できません。
- アルカリ乾電池は銘柄により容量の差があり、電池寿命（使用時間）がかなり短い場合があります。また液晶モニターOFFでご使用ください。

電池についてのご注意

電池の使いかたを誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂の恐れがあります。以下の事項をお守りください。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕と⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池）、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（電池を取り外して放置した場合、各種設定が工場出荷設定に戻ります）。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、2本すべてを新しい電池にお取り替えください。新しい電池とは、アルカリ乾電池では「最近購入した未使用のもの」、ニッケル水素電池/ニカド電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（＋10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が短くなります。特にアルカリ乾電池はこの傾向がありますので、電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。

⚠ **万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。**

⚠ **電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。**

電源についてのご注意

■電池の廃棄について

電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

■小形充電式電池（ニッケル水素電池/ニカド電池）についてのご注意

- 単3形ニッケル水素電池/ニカド電池の充電は、専用の充電器（付属）または急速充電器（別売）を使用し、正しく行ってください。
- 充電器（付属）または急速充電器（別売）では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- ニッケル水素電池/ニカド電池は、出荷時には充電されていません。ご使用の前に必ず充電してください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池/ニカド電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池/ニカド電池は使わなくても自己放電しています。ご使用の前に必ず充電してください。また、正常に充電したにもかかわらず、使用できる時間が著しく短くなったときは、電池の寿命です。新しいものをお買い求めください。
- ニッケル水素電池の電極に、皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。この場合は、電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃後、一度使いきってから充電してください。

■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（ニッケル水素電池/ニカド電池など）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

バッテリーチャージャーについてのご注意

- 充電式電池やバッテリーチャージャーは、内部で電力を消費するため温かくなりますが異常ではありません。できるだけ通気の良いところで使用してください。
- ご使用中、内部で発振音がする場合がありますが、故障ではありません。
- バッテリーチャージャーでフジフイルム ニッケル水素電池HR-AA/ニカド電池KR-AA以外のバッテリーを充電しないでください。
- 充電中のバッテリーチャージャーにラジオを近づけると、放送に雑音が入ることがあります。その場合は、バッテリーチャージャーをラジオから離してご使用ください。
- 充電式電池の接続部や接点部に他の金属が触れないようにしてください。ショートすることがあります。

● 次のような場所には、置かないでください。
暖房器具の近くや直射日光の当たるところなど、温度の高いところ/湿気の多いところ/ほこりの多いところ/振動の激しいところ
● 海外でも使用可能な、入力AC100～240V、50/60Hz仕様です。ただし、電源コンセントの形状は、各国・各地で異なりますので国に合ったコンセント変換プラグが必要です。詳しくは、旅行代理店にご相談ください。

バッテリーチャージャーの主な仕様

定格入力	AC 100-240V　50/60Hz
入力容量	AC 100V　4VA、AC 240V　5VA
定格出力	DC1.2V　130mA×2
適合電池	FUJIFILM 単3形ニッケル水素 1500 FUJIFILM 単3形ニッケル水素 1600 FUJIFILM 単3形ニカド電池 ハイパワー 1000
充電時間	FUJIFILM 単3形ニッケル水素 1500：約12時間 FUJIFILM 単3形ニッケル水素 1600：約13時間 FUJIFILM 単3形ニカド電池 ハイパワー 1000：約8時間
外形寸法	86×68×24.6mm(長さ×幅×厚さ)
質　　量	約80g(電池含まず)
使用周囲温度	0℃～＋40℃

ACパワーアダプターについてのご注意

本機には、必ず専用のACパワーアダプターAC-3V(別売、EIAJ規格・極性統一形プラグ付き)をお使いください。AC-3V以外のACパワーアダプターをお使いになると本機の故障の原因になることがあります。

● ACパワーアダプターの接点部には、他の金属が触れないようにしてください。ショートする危険があります。
● 電池動作中にACパワーアダプターを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
● ACパワーアダプター動作中に電池を入れたり、交換したりしないでください。一度電源を切ってから行ってください。
● 電池がない状態でACパワーアダプターを抜くと、日時の保持はしません。日時を設定し直してください。

スマートメディア™についてのご注意

■スマートメディアについて
デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像データが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像データを消去したり、再び記録することができます。

■ID付きスマートメディアについて
SmartMedia ID（ID付きSmartMedia）は、スマートメディア個々に（ID）番号を割り振ったもので、IDを利用した著作権保護、その他の仕組みを持つ機器で使用できます。本機では、従来のスマートメディアと同様に使用できます。

■データ保持について
以下の場合、記録したデータが消滅（破壊）することがあります。記録したデータの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
＊お客様または第三者がスマートメディアの使いかたを誤ったとき
＊スマートメディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊スマートメディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にスマートメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき

大切なデータは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■取扱上のご注意
●スマートメディアに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
●スマートメディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にスマートメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。スマートメディアが破壊されることがあります。
●指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
●スマートメディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
●強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
●高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。
●スマートメディアの接触面（金色の部分）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
●スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気に

よる影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。

- 静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- インデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。スマートメディアの出し入れの際、故障の原因になります。
- インデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように、はってください。
- 万一、当社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しいスマートメディアとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■スマートメディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのスマートメディアを使って撮影する場合、スマートメディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- スマートメディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダーが作成されます。画像データは、このフォルダー内に記録されます。
- パソコンでスマートメディアのフォルダー名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。スマートメディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- スマートメディア上の画像データの消去はカメラで行ってください。
- 画像データを編集する場合は、画像データをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像データを編集してください。

■主な仕様

形　式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード SmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm（幅/高さ/厚み）

警告表示

▶液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示		警告内容	処　置
液晶モニター	液晶表示パネル		
（電池マーク）	（電池マーク点滅）	カメラの電池の容量が少ない。	電池を交換するか、充電してください。
!NO CARD	NO CARD	スマートメディアが入っていない、または入れている向きが間違っている。	スマートメディアを入れるか、スマートメディアの向きを直してください。
!CARD NOT INITIALIZED	!ERR CARD	スマートメディアがフォーマット(初期化)されていない。	スマートメディアをフォーマットしてください。
!CARD ERROR	!ERR CARD	• スマートメディアの接触面(金色の部分)が汚れている。 • スマートメディアが壊れている。 • スマートメディアのフォーマットが異常。	スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。
!CARD FULL	CARD FULL	スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。	画像を消去するか、空き容量のあるスマートメディアを使用してください。
!PROTECTED CARD	CARD (鍵マーク)	スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	誤記録防止状態になっていないスマートメディアを使用してください。
!READ ERROR	!ERR READ	正常に記録されていないデータを再生した。	再生することはできません。
!FILE NO. FULL	FILE FULL	コマNo.が999―9999に達している。	コマNo.メモリー機能をOFFにして、フォーマットしたスマートメディアに撮影してください。

警告表示		警告内容	処　　置
液晶モニター	液晶表示パネル		
(手ブレ警告マーク)	—	シャッター速度が遅く、手ブレを発生しやすい状態。	ストロボを強制発光にしてください。または三脚を使用してください。
! PROTECT	—	プロテクトされているコマを消去しようとした。	プロテクトを解除してください。
! AF	—	AF(オートフォーカス)がうまく働かない。	• 暗い場合は被写体から1.5m以上離れて撮影してください。 • AFロック撮影をしてください。
! AE	—	AE連動範囲外です。	撮影できますが、適性露出ではありません。
DPOF設定されています、消去しますか?	—	削除しようとした画像はDPOFプリント指定されている。	画像を削除すると、DPOF指定項目からも同時に設定が削除されます。
DPOFファイル再設定 OK?	—	DPOFファイルにエラーがあります。または、他の機器で設定したDPOFファイルです。	DPOFファイルを新しく作成し、DPOF設定をすべてやり直す場合は“メニュー/実行”ボタンを押してください。
! DPOF FILE ERROR	—	DPOFのコマ設定で999コマ以上のプリント指定をした。	同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。
! LENS COVER	! ERR SYS	• レンズカバーが開いていない。 • カメラが誤作動または故障しています。	• レンズカバーに触らないようにして、電源を入れ直してください。 • 電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、フジサービスステーションにお問い合わせください。

故障とお考えになる前に

▶故障と思う前に、もう一度お調べください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	●電池が消耗している。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れている。	●充電済みの電池と交換する。 ●電源プラグをコンセントに差し込む。
電源が途中で切れる。	●電池が消耗している。	●充電済みの電池と交換する。
電池の消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っている。 ●端子が汚れている。 ●電池の寿命。	●電池をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付ける。 ●電池の端子部分を乾いたきれいな布でふく。 ●充電済みの新しい電池と交換する。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアが入っていない。 ●スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。 ●スマートメディアがフォーマットされていない。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●スマートメディアが壊れている。 ●オートパワーオフになり、電源が入っていない。	●スマートメディアを入れる。 ●新しいスマートメディアを入れるか、コマを消去する。 ●誤記録防止状態を解除する。 ●フォーマットする。 ●スマートメディアの接触面を乾いたきれいな布でふく。 ●新しいスマートメディアを入れる。 ●電源を入れる。

症　　状	原　　因	処　　置
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●電池が消耗している。	●充電済みの電池と交換する。
ストロボ撮影ができない。	●モードレバー、撮影モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●ストロボ発光禁止になっている。（ストロボが閉じている） ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押した。	●モードレバー、撮影モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光にする。（ストロボをポップアップする） ●充電が完了してからシャッターボタンを押す。
ストロボの充電ができない。	●記録できるスマートメディアが入っていない。 ●ストロボ発光禁止になっている。 ●マクロになっている。 ●電池が消耗している。	●新しいスマートメディアを入れる、コマを消去する、誤記録防止状態を解除する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光にする。 ●マクロを解除する。 ●充電済みの電池と交換する。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボに指がかかっている。	●被写体に近づく。 ●カメラを正しく構える。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。 ●マクロで遠景を撮影した。	●レンズを清掃する。 ●マクロを解除する。

症　状	原　因	処　置
スマートメディアのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	●誤記録防止状態を解除する（ライトプロテクトシールをはがす）。
全コマの消去ができない。	●コマがプロテクトされている。	●プロテクトを解除する。
カメラのレバーやダイヤルを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動。 ●モードレバー、撮影モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●電池が消耗している。	●電源（電池）をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作する。 ●モードレバー、撮影モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●充電済みの電池と交換する。
“表示”ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	●モードレバー、撮影モードダイヤルの設定位置がずれている。	●モードレバー、撮影モードダイヤルを正しい位置に設定する。
音が出ない。	●カメラの音量設定が小さくなっている。 ●撮影中にマイクをふさいでいる。 ●A/Vケーブルを接続している。	●音量を調節する。 ●撮影時はマイクをふさがない。 ●A/Vケーブルを外す。
テレビに画像、音声が出ない。	●ムービー再生中にA/Vケーブルを接続した。 ●カメラとテレビの接続が間違がっている。 ●テレビの入力が「テレビ」になっている。 ●テレビの音量が小さくなっている。	●正しく接続する。 ●正しく接続する。 ●テレビの入力を「ビデオ」にする。 ●音量を調節する。

主な仕様

システム

●**型式：**デジタルカメラ
●**記録メディア：**スマートメディア（3.3V仕様）
●**記録方式：**
静止画：DCF準拠（Exif Ver.2.1 JPEG準拠）/ DPOF対応
動　画：DCF準拠（AVI形式 Motion JPEG）
●**記録画素数（ピクセル）：**
2400×1800/1280×960/640×480
ハニカム信号処理により最大432万画素
●**撮像素子：**1/1.7型スーパーCCDハニカム
原色フィルター採用（総画素数：ハニカム配列の240万画素）
●**撮像感度：**ISO 200、400、800相当
●**レンズ：**スーパーEBC フジノン光学式3倍ズームレンズ
●**焦点距離：**8.3mm～24.9mm
（35mmカメラ換算：36mm～108mm）
●**ファインダー：**実像式光学ファインダー
●**露出制御：**TTL64分割測光、プログラムAE（マニュアル撮影モード時、露出補正可能）
●**ホワイトバランス：**
オート（マニュアル撮影モード時、7ポジション選択可能）
●**撮影可能範囲：**
標　準：約80cm～無限遠
マクロ：約20cm～80cm

●**スマートメディア標準撮影枚数**
撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル	2400×1800			1280×960			640×480			ムービー
クオリティー	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	BASIC	——
画像1枚のデータサイズ	約1700KB	約803KB	約328KB	約612KB	約312KB	約162KB	約162KB	約87KB	約50KB	——
MG-4S（4MB）	2	4	11	6	12	23	23	44	70	22秒
MG-8S（8MB）	4	9	23	12	24	47	47	89	141	45秒
MG-16S（16MB）	9	19	47	25	49	90	90	165	248	90秒
MG-32S（32MB）	18	38	94	50	99	180	180	331	498	182秒
MG-64S（64MB）	36	77	189	101	198	362	362	663	996	364秒

●**電子シャッター：**
可変速　3秒〜1/2000秒（メカニカルシャッター併用）
●**絞り：**F2.8〜F4.5/F7.0〜F10.8自動切り換え
●**セルフタイマー：**タイマー時間約10秒
●**消去方式：**1コマ消去・全コマ消去・フォーマット（初期化）
●**液晶モニター：**2型　13万画素　低温ポリシリコンTFT
●**ストロボ：**調光センサーによるオートストロボ
撮影可能距離　広角：約0.2m〜4m
望遠：約0.2m〜3m
発光モード：オート/赤目軽減/強制発光/スローシンクロ

入・出力端子

●**A/V OUT端子：**
ステレオミニミニ（φ2.5mm）ジャック
音声：316mVrms 出力インピーダンス2.2KΩ以下
●**デジタル（USB）端子：**
パソコンへのデータの転送
●**DC入力端子：**
専用ACパワーアダプター AC-3V接続

電源部、その他

●**電源**
単3形ニッケル水素電池2本使用（付属）
単3形ニカド電池2本使用（別売）
専用ACパワーアダプター AC-3V使用（別売）

●**バッテリー撮影可能枚数**

電池の種類	液晶モニターON状態	液晶モニターOFF状態
ニッケル水素電池 HR-AA「ニッケル水素1600」	約80枚	約230枚
ニカド電池 KR-AA（HP）「ハイパワー1000」	約50枚	約140枚

常温でストロボ使用率50%の場合の、連続して撮影できる枚数のめやすです。ただし、カメラの使用環境温度やバッテリー充電量のバラツキによる変動があります。

●**使用条件：**
温度0℃〜＋40℃　湿度80%以下（結露しないこと）
●**本体外形寸法：**
78mm×97.5mm×32.9mm（幅/高さ/奥行き）
＊付属品、突起部含まず
●**本体質量：**
約255g（付属品、バッテリー、スマートメディア含まず）
●**撮影時質量：**約310g（バッテリー、スマートメディア含む）
●**付属品：**5ページをご覧ください。
●**別売アクセサリー：**98〜104ページをご覧ください。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

■それでも調子が悪いときはサービスステーションへ
お買上げ店、またはフジサービスステーションにご相談ください。

■保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■修理部品の保有期間
本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年をめやすに保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■修理ご依頼に際してのご注意

- 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添付してください。
- お買上げ店やフジサービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と料金をご指定ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
- 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
- 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合はフジサービスステーションで、お預かりしてから通常7～14日位をご予定ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。
■型名　　　：ファインピックス4700Z
■故障の状況：できるだけ詳しく
■ご購入年月日